

## 会 議 録

会議の名称		令和6年度第1回つくば市在宅医療・介護連携推進協議会		
開催日時		令和6年(2024年)5月22日(水)		
開催場所		つくば市役所 201会議室		
事務局(担当課)		福祉部地域包括支援課		
出席者	委員	飯岡幸夫委員、田宮菜奈子委員、長卓良委員、成島浄委員、志真泰夫委員、小關剛委員、根本知砂子委員、井ノ口美樹子委員、大藤朋実委員、大曾根賢一委員、酒寄順委員、岩田直子委員、飯泉孝司委員、飯沼清委員、浅井知枝委員、野澤亮子委員、佐野洋子委員、大久保洋子委員、本多めぐみ委員		
	事務局	福祉部：根本部長、相澤次長 保健部：黒田顧問 国民健康保険課：鈴木参事補 地域包括支援課：相澤課長、岡野課長補佐、市川係長、風見保健師、栗原主事、原田主事		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部公開
傍聴者数		0人		
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 令和5年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業実績について (2) 令和6年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業計画について(案) (3) 令和6年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会実務部会開催日程について		
会議次第	1 開 会			
	2 あいさつ			
	3 議 題	(1) 令和5年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業計画について (2) 令和6年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業計画について(案) (3) 令和6年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会実務部会開催日程について		
	4 その他			
	5 閉 会			

### 議事内容

事務局	定刻になりましたので、ただいまより令和6年度第1回つくば市在宅医療・介護連携推進協議会を開会いたします。
-----	--

	<p>本日は公私ともにお忙しい中、つくば市在宅医療・介護連携推進協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の司会を務めます地域包括支援課課長の相澤です。どうぞよろしくお願ひいたします。会議に先立ちまして、マイクの使い方をまず説明いたします。マイクの下を押していただき緑になったことを確認してからお話の方を続けてください。よろしくお願ひいたします。では次第に沿って進行させていただきます。開会にあたり、飯岡会長よりご挨拶をお願ひいたします。</p>
飯岡会長	<p>皆さんこんばんは。お忙しい中、18時45分と言ってもまだまだ診療とか仕事を終えない方もいらっしゃると思います。本日は令和6年度第1回協議会でございます。先日マスコミの方で全国の介護保険料が発表され、大阪が一番で9,000円ぐらい。全国平均が6,600円。つくばは5,800円ぐらいらしいですけれども、おそらく今後の人口構成を考えると5,800円は通過点であって、ここに高齢化率19.1%と書いてありましたが、おそらくこれも上がっていくだろうと思います。ということは介護保険料もアップする。個人負担も増えるし税金も増えるということになります。税金や個人負担が増える中で、今後どういうサービスを住民の方々につくば市が提供するの、内容のあるしっかりしたものを提供して、住民の方に満足していただくことは100%満足とはいかないと思いますが、なるべく納得していただけるようなサービス体制を研究しなければいけない。それを協議するのがこの場にありますので、皆さんのご意見を提案していただいて、つくば市が抱える今後の在宅医療・介護の問題に対する支援がますます充実するものであるように、ご協議を宜しくお願ひいたします。以上です。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。続きまして、事務局を代表し、つくば市福祉部長根本よりご挨拶を申し上げます。      &lt;福祉部根本部長挨拶&gt;</p> <p>続きまして、委員の変更がありましたので、新委員の紹介をさせていただきます。つくば保健所所長の野田委員が退任をされ、後任につくば保健所所長の本多委員が就任いたしましたので、ご報告いたします。本多委員より一言ご挨拶をお願ひいたします。</p>
本多委員	<p>今春の定期人事異動で、筑西保健所からつくば保健所の方に異動い</p>

	<p>たしましたつくば保健所所長の本多でございます。つくば保健所に6年ぶりに帰ってきたところでございます。どうぞよろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>続きまして、異動に伴う事務局職員の変更がありましたので、改めて今年度の事務局職員の紹介をさせていただきます。</p> <p>&lt;事務局職員紹介&gt;</p>
事務局	<p>議事に入る前に事務局から会議の公開に関する連絡事項があります。市では、市政運営の透明性の向上を図ることを目的として、市主催の懇談会等の公開に関する条例を制定し、会議の公開を行っております。本日の会議につきましては、公開の会議とさせていただきます。あわせて会議後、会議録を作成しホームページに掲載させていただきます。また、時間の関係で本日の資料確認は割愛させていただきます。会議の進行はつくば市在宅医療・介護連携推進協議会開催要項第5条第1項の規定に基づき、会長が議長を務めることとなっておりますので、ここからは会長に進行をお願いしたいと思います。飯岡会長よろしくお願いたします。</p>
飯岡会長	<p>それでは早速次第に則りまして、本日の会議を始めさせていただきますと思います。議題(1)令和5年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業実績について、事務局より説明よろしくお願します。</p>
事務局	<p>&lt;資料1に基づき、令和5年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業の実績について説明&gt;</p>
飯岡会長	<p>ただいまご説明いただいた令和5年度の事業実績報告について何かご質問等あればお伺いしたいんですが、ございますでしょうか。前回は報告があった内容に準じてだと思っておりますので、新しいことではないのでよろしいかなと思っております。それではないようですので、次の議題(2)令和6年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業計画(案)について、事務局よりご説明お願します。</p>
事務局	<p>&lt;資料2に基づき令和6年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業について(案)説明&gt;</p> <p>&lt;資料4に基づき令和6年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業年間予定表(案)説明&gt;</p>

飯岡会長	ただいまの事務局からの説明につきまして、何か質問等はございませんでしょうか。
小関委員	ケアマネジャーと医療機関との連携状況について説明があったと思いますが、ケアマネジャーの仕事の満足度について、あまり補足説明がなかったと思いますが、ケアマネジャーの仕事の満足度というのは、何の仕事の満足度になっているのかが1つと、先ほどのケアマネジャーと医療機関との連携状況、2023年はあまり参考値で正確じゃないかもという話がありましたが、満足度は横ばいからちょっと上がっているのに対し、連携状況ができてない。でもケアマネジャーさん達からすると、やはり連携ができてなければ満足度は下がるのではないかと思います。この対象のケアマネジャーは、6圏域の地域包括支援センターのケアマネジャーを指しているのか、介護施設等々全体のケアマネジャーを指しているのか、どういうふうな対象を指しているのか、わかりにくかったのでご質問したかったのですがいかがでしょうか。
事務局	<p>すべての質問に私から適切にお答えできないところもあるかとは思いますが、後で補足してもらってもいいかもしれませんがケアマネジャーは全数です。特にこういうところで働いていらっしゃる方に対してというよりも、全数に対してお配りしてかなり高いパーセントで回答を送り返してきていただいています。</p> <p>満足度と連携状況の推移が乖離している点に関しては、確か少し前に評価部会の中でも話題になったところがあり、昨年度はケアマネジャーに向けて、少し詳しいアンケートをさせていただきました。いろんな満足度がポツンとあっただけでしたが、去年、もっと細かく連携の具合を聞くようなアンケートを実施させていただいて、自由記述も含めてご質問いただいたことに関する我々なりの回答は何だろうかということの評価部会で検討していたところがあります。満足度を既定している要因はいくつかありまして、連携できているかどうかということも、もちろん大事ですが、支援した方、関わった方が喜んでくださったとか、役に立っていると思えた感覚ですとか、そういったところも満足度に関係してきているというのが印象に残った部分ではあります。何に関する満足度かということに関しては、ざっくりとした聞き方の質問にしかないので、ご本人が何を連想して答えられたかによって、回答いただいた方によって少し差はあるかもしれません。それらをすべて総合して足し</p>

	<p>合わせたパーセントで全体を簡便に評価しているというような認識でおります。</p>
飯岡会長	<p>小關委員、よろしいですか。</p>
小關委員	<p>質問した理由としては、今年度の重点評価指標の中にもこれがそのまま使われているじゃないですか。こここのところの満足度というところが非常にざっくりと聞いたということですが、今年度の重点評価指標にするのであれば、具体的にその話を突っ込んで作っていかないと、この2つが乖離していくのはあまりいいことではないのかなと思います。在宅医療を考えていく中で、そのケアと地域の方たちとの密接さを考えると、地域包括支援センターはつくば市の事業で重要な位置を占める中で、ケアマネジャーが中心になってやっていて、現状をうまく把握できないと重点評価指標にする意義が薄れてしまうんじゃないかと思っています。そこがすごく気になる点です。ケアマネジャーと医療機関との連携状況が低い、高いというのは、ケアマネジャーさんが思っているらっしゃるということなので、ケアマネジャーさんがどういうふうを考えているのかを深く掘り下げられると、アンケートに意義が出てくると思いましたので意見させていただきました。以上です。</p>
飯岡会長	<p>連携と満足度の乖離というのがありますが、どうでしょうか。現場でこういう声を聞きますでしょうか。</p>
井ノ口委員	<p>地域包括支援センターでケアマネジャーの仕事をしていますが、地域のケアマネジャー、居宅介護支援事業所のケアマネジャーの声を聞くことが非常に多くて、抱えているケース、利用者またはその家族への対応がケースごとによって負担感が違うんですね。様々な課題を抱えたケースを30人40人と抱えていますので、今回の介護報酬改定で抱えることのできる人数もまた上がりましたが、事務的な業務量は変わらない。逆に増えている部分もあります。その事務的な作業量が増えていることも負担の1つでもあるし、一人一人のケース対応にすごくダメージを受けて、退職を考えるケアマネジャーもいると聞いたり、実際にもあります。せっかく憧れを持ってケアマネジャーになっても、そういったダメージを受けて退職、または職を変える、元の職に戻るといったような声も聞かれています。また、職場環境によって24時間の勤務体制をとるところも多いため、時</p>

	<p>間外の対応が多くて負担だということもあると思います。ケアマネジャーはなかなか合格率が低くて、やっとなることができて、私も3年かかってなっていますが、なりたくてなっても実際の業務を続けていると疲れ果てて燃え尽きて辞めてしまうという現状も確かにあります。医療機関の主治医の先生との連携は不可欠になるのですが、福祉職の方は、なかなかお医者さんと話をするのが苦手だったり、病院と上手に連携がとれないという現状もあり、苦手意識を持ってしまうことも実際にあると思います。今、ケアマネジャー不足が全国的に課題になっていて、定年を迎えて退職される方は仕方ないですが、つくば市でもやはりなり手がいない。新しくケアマネジャーになりましたという人は本当に貴重なので、辞めないでほしいという気持ちがあります。そういった声はよく聞いて、ケアマネジャーが減って事業所が閉鎖という声を聞くと、とても残念な気持ちになります。本当にケアマネジャーの負担感を減らすのは、国の制度を変えるのはどうしても難しいですが、いろんなケースに対応する技術力だったり、連携のしやすさという環境がとても大事だと思います。満足度が変わらないのはいいのですが、医療機関との連携の数値が下がったのは非常に残念だなと思います。</p>
飯岡会長	<p>ありがとうございます。2020年度の74%から2021年度に69%になって、2022年度は67%で2023年度にガクンと落ちている。この4年間の動きを見るとコロナの影響はどうなのでしょう。あまり関係ないですか。訪問にしても何にしてもいろいろな制約が多かったですよね。コロナの時期を経て急に糸が切れたわけじゃないけれども、何か気が抜けたというか、お互い多少あるのかなという感じもしないでもない。どうでしょうか。</p>
井ノ口委員	<p>感染が一番ひどい時期は、日本介護支援専門員協会からも国からも訪問の仕方について少し緩和の意向が出たので、会わなくても毎月訪問したことにはできました。その時期ももう終わって、毎月の訪問は利用者によっては10分、15分で終わるようなお宅と、2時間も3時間も拘束されるお宅とあると思います。訪問しなくてもモニタリング訪問したことになっている時期の方が楽だったと思うケアマネジャーもいると思います。今回の改正で、テレビ電話等のツールを使ってもいいというような方針は出ましたが、法人や事業所で端末を用意できている、または利用者がそれに対応できるというケースも少ないと思いますので、逆に今までと変わらないよ</p>

	<p>うな状況かと思えます。きっと都内ではそういったツールを活用している利用者さんも多いのではないかと思います。ただ、まだまだこちらの方ではそういったツールを使っているモニタリング、テレビ電話、オンラインで話ができる状況は整っていないところが多いです。オンラインでモニタリングできたとしても、画面上での状況しか分からない。自宅での生活状況がモニタリングできるわけではないので、毎月訪問していたケアマネジャーは、やっぱり行かないという気持ちはあると思えます。ただ、毎月何十件と訪問する負担と事務の手間は変わらないので、コロナの影響というよりは、元に戻ったという状況かと思えます。</p>
飯岡会長	<p>ありがとうございます。その他何かありますか、どうぞ。</p>
野澤委員	<p>今の設問なんですけど、ケアマネジャーの方にアンケートをとってケアマネジャーの感じ方での結果だと思うんですが、逆に病院はケアマネジャーと連携がとれてるのかとれていないのか、そういう病院側のお考えや指標があれば、ケアマネジャーがもっと頑張らなくてはとか、連携できてないのはやっぱり実際そうなんだとか、そう感じているけれども、実情はそうでもないよとか、両方からの結果が分かる方法があればと思いました。以上です。</p>
飯岡会長	<p>ありがとうございます。ケアマネからだけでなく、医療関係、医師からの考えを見てケアマネの考えと擦り合わせてみるというのも有効な方法の1つかもしれないですね。連携状況が44%とかなり落ち込んでいるので、どういう部分が落ちているのか、その辺を分析するのも大事かと思えます。事務局でよく検討していただければと思えます。その他ありますか。</p>
佐野委員	<p>昨年度の実績の資料1でご説明いただいたように、ケアマネジャー向けの医療との連携に関するアンケート調査の中で、アンケートによる学びの1つとして、関係者の顔の見える関係づくりだけではなく、その人となり分かる関係づくりが重要であることがわかった、という認識に至っているわけですね。その人となり分かる関係づくりというものの内容が、今ひとつ私にはピンと来ないんですが、人となり分かる関係づくりを構築するために、今年度の各事業の中でどのような工夫というか、そこの繋がりです、事業の中にどのような工夫を盛り込んでいるのかどうなのかを知りたいで</p>

	す。
飯岡会長	事務局、いかがでしょうか。
事務局	確かに具体的には示していませんが、今年度考えているのは、顔の見える関係づくりの場ということで、研修会と意見交換会を年に複数回行ってはいますが、今までの形だと研修の時間が長く、意見交換の時間が短かったというのを反省いたしまして、今年度はできるだけ意見交換をメインにするような場を設定したいと考えております。
飯岡会長	よろしいですか。その他ありますか。
田宮委員	先ほどから話題になっているケアマネジャーのデータに関しての部会をやっていたので一言申し上げます。確か医療ニーズがどう推移しているかということも含めてみましょうというような話で、医療ニーズがある人は連携が必要だし、そうでもない利用者さんにはそもそも連携はそんなには必要ではなくて、連携のしにくさや患者さんの持っている医療ニーズがどのぐらいいかにもよるという話をされていて、そこを今度わかるように層別化しようという話があったと思います。先ほど黒田顧問からお話があったように、部会でも着目して分析しようという話にはなっていますので、今のご意見を合わせて見ていきたいと思います。
小關委員	前年度とデータの取り方は違うんですか。
田宮委員	それと医療ニーズの高い人が増えているか減っているか、そういう動きも、コロナのいろんなこともあって変わっているかもしれないという話もあります。少し話が違いますが、コロナ前との推移で、在宅で死亡する方がすごく増えたんですね。現場の感覚もそうだと思いますが全国の統計もそうです。コロナで病院ではなかなか看取りができない、面会にも行けない状況で、特に若いガン患者さんが増えているというデータが出ていますので在宅の患者さん像が変わっている可能性もあると思います。そうすると、もともと医療連携をたくさんしなきゃいけないところできていないと思うのか、その辺も含めて急に67から44になって考えていきましょうという話が出ていました。貴重なとても大事なところですので、皆

	さんにここに着目いただいてやっていきたいと思います。
飯岡会長	ありがとうございます。その辺を今年度のテーマを見て、よく分析していただいて、このパーセントの上がり下がりがどういう形で影響しているのか、内容は何なのか、よく分析していただければと思います。よろしくお願いします。その他、何かございますか。
志真委員	後で触れられるのかもしれませんが、年間予定表の中で、私が担当している情報部会のところで2つ質問があります。1つは4月に科学技術略課との打ち合わせと書かれていますが、これはそういうことがされたということだと思いますが、情報部会には全く伝わっていないので、これはどういうことかご説明いただきたいということと、7番に「わたしの大切な情報をカード」送付と書いてありますが、これも情報部会で去年扱っていないので、どういうことなんだろうというのが2つ目の質問です。
事務局	情報部会の予定の7月に「わたしの大切な情報カード」の送付というのが入っているというご質問ですが、お薬手帳につけるカードに関しては、昨年度まで活用普及啓発部会で実施していた内容ですが、今年度、活用普及啓発部会が連携拠点検討部会（仮）というように変更する都合上、「わたしの大切な情報カード」を情報部会の方に入れさせていただいたという経緯になります。申し訳ありませんが、昨年度実施していた内容が情報部会の方にずれている形です。事務局の方で介護保険の負担割合証と一緒にこのカードを7月に送付することになっておりまして、都合上、その予定を年間スケジュールに記載させていただきました。
志真委員	これは、地域包括支援課の仕事ということで、ここに入れたいということですか。情報部会とは関係ないのでは。
事務局	市民向けの情報発信ツールになるため情報部会の方に入れさせていただいておりますので、関係なくはないかと考えております。
志真委員	情報部会で「わたしの大切な情報カード」を今後検討していくということですか。
事務局	もう出来上がっているのですが、今後、改良・改善、変更点があった場

	合には協議をしていきたいと思っております。
志真委員	そういうことですか。4月のはどうなんでしょうか。
事務局	こちらは、内閣府における調査事業への事業者提案内容の説明と、関連部署へのヒアリングというような内容での打ち合わせになっております。事業の提案内容については、7月の情報部会の際にご説明をさせていただきたいと考えております。
志真委員	7月の説明を聞いてということですね。
事務局	はい。
飯岡会長	よろしいですか。7月によく協議していただいて。 4月のことは先生は全く知らなかったんですね。情報部会の議長が知らないところで知らないテーマがもう決まっていて、それに関して、決まったことを7月に説明しますというのは、ちょっとおかしい気がするんですが。決まるなら決まる前にこういうことでこういうことがあるからと事前に知らせないと。
成島委員	ちょっといいですか。言葉が足りないんだと思います。「わたしの大切な情報カード」は令和5年までであった活用普及啓発部会で取り扱っていたんですが、お薬手帳の中に「わたしの大切な情報カード」を入れましょうということで進めてきて、令和5年まで配布を行っていました。その活用普及啓発部会が令和5年度で終了して、令和6年度からここに書いてある連携拠点検討部会という、また違う部会となったので、今まで行ってきたものは情報部会で引き継ぐ形になったみたいなんですね。そこのやりとりに関して、どの部会も十分理解していなかった。情報カードは、令和5年まで検討してきたんだから動かしたいと。ただ、動かしていた部会がなくなったので、それを情報部会、志真先生の部会に入れる形をとったんだと思います。それからもう1点、科学技術戦略課の方は、スーパーシティ構想の流れだと思いますが、ここに載せるのであれば、会長がおっしゃったように志真先生に、きちんと事前にそういうことをやって、事務方でそういう話があったんだと伝えておいてもらわないと、情報部会は何なのかという話でこれは飯岡会長のおっしゃる通りだと思います。「わたしの大切な情報カード」は、もともと活用普及

	啓発部会で扱っていたもので、その部会がなくなったので、こちらにシフトしてという形で検討していくという経緯です。理解していただけますでしょうか。
飯岡会長	ありがとうございます。
事務局	言葉足らずで申し訳ありませんでした。
飯岡会長	各部会のこっちの内容とこっちの内容がくっついたときには、新しい部会の議長には、話を通しておかないとわからないよね。急にポンと来ちゃうと内容がわからない。だから、志真先生が言ったように、全然聞いたこともないという形になるので、少なくとも部会で扱うのであれば、部会の議長には内容を事前に知らせておいてください。そうじゃないと部会が何のためにあるかわからないんでね。市の方は当然知っていますが委員の方が知らなければ全然意味をなさないことになるので留意をお願いいたします。それでは今の説明で志真先生よろしいですか。
志真委員	はい。
飯岡会長	では、次の議題（３）令和６年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会実務部会の日程について事務局よりご説明をお願いします。
事務局	<資料３に基づき、令和６年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会 実務部会の日程等について（案）説明>
飯岡会長	ありがとうございます。来年度の実務部会の日程について、何かご質問等ありますでしょうか。
志真委員	質問ですが、情報部会の協議会外と書かれた長沼委員についてのプロフィールがどこにも載っていないので、どういう方なのかがよくわからない。飯泉委員と飯沼委員はもちろん前から知っていますし、大曾根委員もそうですが、長沼委員はケアマネジャーでしたか。
事務局	はい。長沼委員はケアマネジャー会からご推薦いただいた現役のケアマネジャーさんになります。

飯岡会長	立澤委員はいかがでしょうか。
事務局	はい。立澤委員は筑波メディカルセンター病院の副看護部長で、退院調整看護師会からご推薦をいただいております。
志真委員	どこか名簿の欄外でもいいので、どこの所属でどういう方かということ載せておいていただいた方がいいと思いますが。
事務局	はい。承知いたしました。
小關委員	ちょっと伺いたいのですが、わざわざ協議会外からメンバーを持ってくる理由は何かあるんですか。こういうケアマネジャーをここに入れないといけないとか、副看護部長さんを連れてこないといけないとか、こういうメンバーの方が必要というのであれば、協議会のメンバーに入れたらいいのでは。3年ごとにメンバーが変わるわけで、わざわざ協議会外から濱野先生は以前、協議会のメンバーだったと思いますが、こういう形で持ってくるのであれば、協議会の委員の中に入れてしまった方が混乱を招かないのではないかと思います。何か理由があるのかとご質問させていただきました。
事務局	つくば市在宅医療・介護連携推進協議会の開催要項に、協議会の委員は20名以内という規定が載っております。現時点の委員数が20名で上限に達している状況です。情報部会の協議会外の委員に関しては、議長の志真先生の方から、ぜひケアマネジャーさんのご意見も組み入れた形で協議を、というようなお話がありましたので、ケアマネジャー連絡会の方にご相談をして委員として入っていただいております。退院調整看護師の会の方には、今まで活用普及啓発部会の方に入っていただいております。情報共有の連携ツールの活用で、つくば双愛病院の方に担っていただいております。その兼ね合いで、今年度も退院調整看護師の会の方から委員さんを推薦していただいて、研修や意見交換の場でご意見を頂戴したいということに加わっていただいている状況です。
小關委員	そうだとすると、そもそも20名っていうのも考え直さないといけないのではないかと思います。部会の議長や部会の意向で、実務部会のメンバーの構成員が協議会外からも必要だということは、協議会のメンバー構成が十分ではないということになりますよね。その

	<p>辺り考え直したほうがいいのかと思います。</p>
事務局	<p>今後は連携拠点検討部会の方で、次年度以降の協議会のメンバー構成や場合によっては構成員の人数についてもご協議いただけたらと考えております。</p>
飯岡会長	<p>ありがとうございます。人数については今後協議して、実務部会は非常に大事な部会ですので、構成員を場合によっては人数をどうするかを含めて今後検討いただけたらと思います。その他ございませんか。</p>
飯泉委員	<p>情報部会に入っています飯泉です。数年、志真先生の部会と全体会議も出させていただいています。委員の中に民生委員として活動している方が4名いますが、我々も在宅介護にお世話になる年齢になっています。民生委員の中には作業療法士等、若い方がいるんですよ。できれば今後ぜひそういう若い方にも入っていただいた方がいいと感じました。今医療関係の方が大体6割7割ぐらいいらっしゃって、市民の立場からは結局、居場所づくりとかそういう意見しか言えませんが、医療関係の目と市民の目の両方を持っている方に入っていただいた方がいいと考えたものですから、こういう全体会議のときに皆さんにお諮りして、それから相談に乗っていただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
飯岡会長	<p>ありがとうございます。他、何かありますか。よろしいですか。それではないようなので、私より一言あります。つくば市在宅医療・介護連携推進協議会委員名簿（案）がありますが、任期が令和4年から来年度3月31日まで3年間という形になっています。私が会長をやっていますが、先ほどの話ではないですが、やはり若い先生にやっていただいて、私もそろそろ介護を受ける年齢で後期高齢に近づきつつありますので、今年度で会長は辞めて新しい若い先生が行政に携わっていただけたほうが、今後のためには非常にいいだろうと思います。歳を取った人が悪いとは言わないけれども、人間、去り際は自分で考えなきゃいけない。いつまでもその場所で踏ん張っていてもいいことは決してないので、若い人の新しい考え方というか、多少つまずいたりいろいろあろうかと思いますが、それもまた会議のいい面であって新しいところに進んでいった方がいいと思います。そういう意味では、私は今年度で、私の役目は一</p>

	<p>通り来年3月までありますけれど、皆さんと顔を合わせるのには部会以外ではもう次の協議会が最後になると思います。来年度は新しいメンバーでまた新しいスタートを切ってほしいと思います。僕は何年やったかちょっと覚えてないんですけども6年くらい、長い間本当にご協力ありがとうございました。いろいろありましたけれども、うまく協議会が発展して、先ほど言いましたが市民にいかにか市の行政を評価してもらえるのか、いろんな人がおりますので100%評価してもらえるとというのはまずないと思いますが、大多数によくやっているなと評価していただければ、それはそれで僕はいいのかなと思います。そのうち、私も介護申請するかもしれませんが、そういうことにならないように気を付けますけれども、年齢はもう致し方ないですしね。皆様も体に気をつけて、あと1年間私は頑張っでやりますが、飯泉委員が言われたように、若い人に譲るのも1つの方法だと思います。ここに携われたことは非常にいい時間を過ごしたのかなと感じております。そういう私事でございます。あともう少しですので、よろしくお願いします。それでは、進行を事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>飯岡会長ありがとうございました。本日の協議会のご意見を念頭に置き、今年度の在宅医療・介護連携推進事業を進めて参りたいと考えております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。以上をもちまして、つくば市在宅医療・介護連携推進協議会を閉会とさせていただきます。本日は長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。</p>

令和6年度第1回つくば市在宅医療・介護連携推進協議会次第

日時：令和6年（2024年）5月22日（水）

18時45分～20時15分

場所：つくば市役所 201会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 令和5年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業実績について 資料1

(2) 令和6年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業計画について（案）  
資料2

(3) 令和6年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会実務部会開催日程に  
ついて 資料3

4 その他

5 閉 会

<重点目標>

- ・市民に対し在宅医療・介護について情報発信し、認知度を上げる
- ・ICTツールを活用した連携体制を整備する
- ・研修会や意見交換会を通じて、各職種の役割の理解を深めケース支援に生かす

	事業名	内 容	開催日・参加者数他
協議会	つくば市在宅医療・介護連携推進協議会	◆第1回 ・令和4年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業実績について ・令和5年度事業計画について ・令和5年度実務部会開催日程について	令和5年5月23日
		◆第2回 ・令和5年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業報告 ・茨城県第8次保健医療計画について	令和6年3月8日
実務部会	1 (評価部会) 医療と介護のありたい姿の評価指標検討部会	◇第1回 ・重点評価指標の状況について ・要介護認定更新時のアンケート内容の改善について	令和5年6月23日
		◇第2回 ・要介護認定更新時のアンケート調査結果について ・ケアマネジャー向け医療との連携に関するアンケート調査結果について ・要介護認定更新時のアンケート調査の電子化及び改善後の状況について ・令和5年度の振り返り及び令和6年度の方向性	令和5年12月13日
	2 (啓発講座部会) 在宅医療・介護啓発講座の企画・実施・評価部会	◇第1回 ・令和4年度の実施内容の振り返り ・令和5年度の講座企画について ・出前講座の申込み状況について	令和5年6月27日
		◇第2回 ・令和5年度在宅医療・介護啓発講座実施状況について ・わたしの生き方ノート（エンディングノート）について ・令和5年度の振り返り及び令和6年度の方向性	令和5年12月5日
	3 (研修部会) 医療・介護専門職への研修・意見交換会の企画・実施・評価部会	◇第1回 ・令和5年度の研修企画について	令和5年7月21日
		◇第2回 ・第1回研修会の振り返り ・第2回研修会の企画について	令和5年11月14日
		◇第3回 ・第2回研修会について ・令和5年度の振り返り及び令和6年度の方向性	令和6年1月12日
	4 (情報部会) 情報集約・発信・共有検討部会	◇第1回 ・市民向け情報発信について ・専門職間の情報共有について	令和5年7月7日
		◇第2回 ・市民向け情報発信について ・専門職間の情報共有について (ICTを活用した情報連携システムに関する近隣市調査結果報告) ・令和5年度の振り返り及び令和6年度の方向性	令和6年1月17日
	5 (活用普及啓発部会) お薬手帳、エチケットと退院前情報共有チェックリストの活用普及啓発部会	◇第1回 ・連携タイムの活用について ・退院前情報共有チェックシートについて ・おくすり手帳（わたしの大切な情報カード）の活用について	令和5年7月27日
◇第2回 ・退院前情報共有チェックシートについて ・ケアマネジャー向け医療と介護の連携に関するアンケート調査結果について情報共有 ・ケアマネジャー連携タイムについてのアンケート調査報告 ・お薬手帳（わたしの大切な情報カード）の活用について ・令和5年度の振り返り及び令和6年度の方向性		令和5年12月21日	

事業名	内容
市民への普及啓発	<p>◆啓発講座 《元気なうちから考えておこう 在宅医療と介護のこと》</p> <p>①令和5年10月14日 筑波交流センター：12名          《講師》有田 圭介先生（小田内科クリニック）          渡辺 夏子氏（ケアマネジメントセンターまどか）</p> <p>②令和5年11月18日 広岡交流センター：22名          《講師》真柄 和代氏（つくばメディカルセンター訪問看護ふれあい）          永田 顕也氏（アイシーネット介護センター）</p> <p>③令和5年11月25日 大穂交流センター：12名          《講師》久保谷 美代子氏（訪問看護ステーションTERMS）          井ノ口 美樹子氏（大穂豊里地域包括支援センター）</p>
	<p>◆つくば市出前講座（在宅医療と在宅介護）</p> <p>①令和5年6月26日 くさぎさ広場（サロン）：11名          ②令和5年7月12日 東谷田部地区民生委員児童委員協議会：36名          ③令和5年7月12日 西谷田部地区民生委員児童委員協議会：34名          ④令和5年10月7日 つくば市聾者協会：8名          ⑤令和5年10月24日 緑ヶ丘ふれあいサロン：16名          ⑥令和6年1月9日 荊崎地区民生委員児童委員協議会：42名</p>
	<p>◆在宅医療・介護オンライン講座配信</p> <p>①在宅医療編 令和3年11月21日より配信：延再生回数 1,441回          ・つくば市の在宅医療について          ・はじめての在宅医療1・2</p> <p>②在宅介護編 令和4年12月27日より配信：延べ再生回数 306回          ・介護サービスを上手に利用しよう1～地域包括ケアシステムについて～          ・介護サービスを上手に利用しよう2～10分でわかる介護保険の仕組み～</p>
	<p>◆「在宅医療と介護のサービスマップ」の作成、配布及び電子化          ◆「わたしの生き方ノート」（エンディングノート）の配布：990冊          ◆「わたしの大切な情報カード」の作成及び介護保険認定者への配布：8,000人</p>
研修会	<p>◆多職種連携研修会</p> <p>①令和5年10月17日 第1回研修会：76名          「死にゆく人の心によりそう～スピリチュアルケアとは～」          《講師》玉置 妙憂氏（非営利一般社団法人「大慈学苑」代表）          《参加者》ケアマネジャー、訪問看護師、ヘルパー、薬剤師、地域包括支援センター職員</p> <p>②令和6年2月9日 第2回研修会：31名          「本人の思いをつなごう！多職種で考える最善の医療・ケア」          《講師》細井 崇弘先生（在宅・緩和ケア専門医）          《参加者》ケアマネジャー、訪問看護師、退院調整看護師、医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センター職員</p>
介護保険認定者アンケート調査	<p>《対象者》介護認定更新申請者          《調査期間》令和5年4月～9月          《調査内容・結果》介護保険サービスの満足度：91.9%、家族の介護負担感：72.7%、在宅医療の認知度：41.8%、幸福度：62.9%・・・回答率約30%</p> <p>《まとめ》          ・重点評価指標はほぼ一定の数値で推移している。          ・介護度が高いほど回答率が低く、また、本人・家族以外の代理申請でも回答率が低かった。          ・回答率の偏りを考慮し推定しても大きな差はなかった。</p>
ケアマネジャー向け医療との連携に関するアンケート調査	<p>《対象者》市内居宅介護支援事業所のケアマネジャー          《調査期間》令和5年10月24日～11月14日          《調査内容・結果》医療との連携状況：44.3%、仕事の満足度：60.4%</p> <p>《まとめ》          医療との連携度合いを高めるためには、関係者間の顔の見える関係づくりだけでなく、その人となりがわかる関係づくりが重要であることがわかった。</p>
ICTを活用した情報共有システムに関するアンケート調査	<p>《対象》近隣9市          《調査時期》令和5年11月          《調査内容》ICT導入の有無、活用状況、課題等          《調査結果》          ・ICT導入しているのは5市（電子@連絡帳：3市、カナミック：2市）。          ・活用状況として、利用機関数は0～101件と、市によって差がある。          ・うち3市はペーパーレス化による紙、郵送費用の削除、時間短縮、一括での情報共有といったことが主な導入の成果としてあげられ、他2市においては今のところ成果はないとされている。          ・課題として、「患者を取り巻く情報連携には使われていない」「医師の使用が少ないためメリットがない」「温度差があり事業所や人によってはあまり使われていない」等があげられた。</p>
ケアマネジャー向け連携タイムに関するアンケート調査	<p>《対象者》市内居宅介護支援事業所のケアマネジャー          《調査期間》令和5年10月24日～11月14日          《調査内容・結果》連携タイムの認知度・・・知っている：79.2%、知らない：20.8%          連携タイムの活用状況・・・活用できる：34.5%、使ってみたが活用できなかった：17.9%、使っていない：47.6%</p> <p>活用できなかった、使っていない理由として、          「連携タイムを参照し連絡をしたが連携をとることができなかった」「退院調整看護師が対応してくれているから」「特色を知りたい」等の意見があがった。</p> <p>《まとめ》          連携タイムについては継続的に周知し、また、利便性を高めるため内容の充実を図っていく。</p>

<成果>

- 1 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、参集型での研修会及び市民への普及啓発講座を再開することができた。
- 2 研修会については、ACPIに関する内容とし、本人・家族の気持ちに寄り添った支援に繋げるものとした。また、グループワークを取り入れることで、多職種間の顔の見える関係づくりに繋がった。
- 3 啓発講座については、令和4年度未実施の圏域において開催することで、本年度で全圏域にて開催することができた。様々な職種を講師として迎え、在宅医療・介護に関する幅広い情報を市民に伝えることができた。
- 4 重点評価指標の見直しを検討し、要介護認定更新時アンケート内容の改良、電子化を実施した。
- 5 ケアマネジャーを対象とした医療との連携に関するアンケートでは、多職種間の連携度合いを高めるための課題を把握することができた。
- 6 近隣市のICTシステム活用状況について調査し、現状を把握することができた。

令和6年度

**在宅医療・介護連携推進事業計画**  
～ありたい姿の実現を目指して～

第1回つくば市在宅医療・介護連携推進協議会

# Plan 現状分析、課題抽出、施策の立案

## 現状分析① つくば市の在宅医療・介護の現状

### ◆つくば市の人口 (2024年4月1日 住民基本台帳より)

- ・総人口： 254,949人
- (うち65歳以上： 49,192人 75歳以上： 25,382人) 高齢化率： 19.3%
- ・介護保険認定者数： 8,131人 認定率： 16.5% (2024年3月末 介護保険システムより)
- 要支援1・2： 1,959人 ○要介護1～5： 6,172人

### ◆在宅医療資源 (1～5 2024年3月1日 日本医師会地域医療情報システム、6・7 高齢福祉課届出数より※2022年度データ)

	種別	施設数	人口10万対比(全国)	
1	在宅療養支援病院	2	0.83	(1.63)
2	在宅療養支援診療所 (うち強化型)	34 (6)	14.9	(11.89)
3	在宅療養後方支援病院	2	0.83	(0.46)
4	在宅療養支援歯科診療所	65	27.31	(32.31)
5	薬局 (在宅患者調剤加算)	129	53.38	(44.59)
6	訪問看護ステーション	30	7.1	(12.6)
7	訪問リハビリテーション	8	3.2	(4.6)

## ◆在宅介護資源

(2024年3月1日 日本医師会地域医療情報システムより)

	種別	施設数・人	75歳以上1千人あたり数（全国）	
1	居宅介護事業所	55	2.42	(2.01)
2	訪問型介護施設	55	2.42	(3.18)
3	通所型介護施設	57	2.50	(2.93)
4	介護職員（常勤換算人数）	1660.06	72.90	(69.38)

## ◆在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院に係る定例報告

- 訪問診療受療者数 2023年:4,810人 （参考:2022年:4,718人）
- 緊急往診対応件数 1,060件
- 死亡患者数 858人（うち自宅で亡くなった数:433件）

## ◆地域包括支援センター 7か所

# 第9期高齢者福祉計画策定のためのアンケート

(ACP関連項目について) 実施時期：令和4年12月～令和5年1月

調査対象者：一般高齢者	3,000人	有効回答数	1,488人 (49.6%)			
介護保険認定者	3,000人		1,184人 (39.5%)			
				*要支援1.2：698人	要介護1.2：265人	要介護3以上：141人
若年者（40～64歳）	3,000人		655人 (32.8%)			
ケアマネジャー	250人		173人 (69.2%)			

設 問	回 答（認定者）	認定者	一般
ACPについて言葉を知っていますか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前から知っていた</li> <li>・言葉だけは知っていたが、内容は詳しく知らなかった</li> <li>・言葉も内容も知らなかった</li> <li>・無回答</li> </ul>	<p>3.5</p> <p>12.5</p> <p><b>73.1</b></p> <p>11.0</p>	<p>2.4</p> <p>14.2</p> <p><b>79.7</b></p> <p>3.8</p>
「万が一の時に備えて、あなたの大切にしていることや望み、どのような医療、ケアを望んでいるかについて、自分自身で考え、あなたの信頼する人たちと話し合うこと」について、最もあてはまるもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えていない</li> <li>・考えたことはあるが、準備をしていない</li> <li>・考えており、少し準備をしている</li> <li>・考えており、近いうちに行おうと思っている</li> <li>・既に行っている</li> <li>・無回答</li> </ul>	<p>28.5</p> <p><b>39.3</b></p> <p>11.9</p> <p>3.0</p> <p>6.2</p> <p>11.1</p>	<p>29.2</p> <p><b>53.4</b></p> <p>8.8</p> <p>2.3</p> <p>1.5</p> <p>4.8</p>
「万が一の時に備えて、あなたの大切にしていることや望み、どのような医療、ケアを望んでいるか」について記録に残していますか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残している</li> <li>・将来的に残したい</li> <li>・残していない、今後も残すつもりはない</li> <li>・残していない、今後はわからない</li> <li>・無回答</li> </ul>	<p>8.7</p> <p>27.2</p> <p>8.7</p> <p><b>43.6</b></p> <p>11.8</p>	<p>5.0</p> <p>37.8</p> <p>4.6</p> <p><b>48.3</b></p> <p>4.3</p>

## 現状分析②

### ○重点評価指標

※参考値：要介護認更新時アンケートより

評価項目	目標値 (2025年)	2020年 (第8期)	2021年 (※参考値)	2022年 (第9期)	2023年 (※参考値)
在宅医療の認知度 (認定者)	45%	40.4%	45.6% (介護者)	38.0%	41.8% (介護者)
要介護高齢者の介護サービスへの満足度 (認定者)	70%	66.8%	81.3%	92.4%	91.9%
要介護認定者の幸福度 (認定者)	50%	44.0%	59.1%	31.9%	62.9%
家族の介護負担感 (認定者：要介護1以上)	40%	47.6%	66.3%	62.0%	72.7%
今後も働きながら介護を続けていける人の割合 (認定者)	フルタイム 35% パート 20%	32.5% 12.9%	—	67.7% 介護者の29.4%が 就労をしている	—
ケアマネジャーと医療機関との連携状況	80%	74.8%	69.6%	67.6%	44.3%
ケアマネジャーの仕事の満足度 (6/10以上)	60%	52.1%	52.2%	62.0%	60.4%

## 課題の抽出、施策の立案

- 在宅医療の認知度が伸び悩みを示しており、市民に対しACPを含めた普及啓発を継続する必要がある
- ケアマネジャー向け医療との連携状況アンケートの結果より、多職種連携度合いを高めるため、顔の見える関係づくりに向けた研修・意見交換会を実施する必要がある
- 医療と介護の切れ目のない連携を実現するため、ICTツール導入に向けた準備を進める必要がある
- 専門職からの医療・介護連携に関する相談窓口の設置に向けた体制を整備する必要がある
- 在宅医療に必要な連携を担う拠点として、庁内関係部署と協議の場を設ける必要がある

# D<sub>0</sub> 対応策の実施

## (1) 希望の生き方 を共に考える ①

### <重点目標>

市民に対し在宅医療・介護について情報発信し、認知度を上げる

### (評価部会)

- ①高齢者福祉計画策定のためのアンケートを見直し、そこから見えてくる在宅医療・介護の連携に関する課題を抽出、必要に応じ他部会への共有を進める
- ②ありたい姿の進捗管理として目標値の見直しを行う
- ③第8次保健医療計画に関する指標を定める

### (啓発講座部会)

地域で在宅医療やACPIに関する啓発講座を開催し、市民への普及啓発に繋げる

## (1) 希望の生き方 を共に考える ②

### <重点目標>

市民に対し在宅医療・介護について情報発信し、認知度を上げる

#### (情報部会)

在宅医療・介護について紙媒体と電子媒体を併用し、市民への情報提供の充実を図る

#### (連携拠点検討部会)

在宅医療に必要な連携を担う拠点としての協議を進めていく

(協議会委員の構成について協議、連携体制を整備する上での課題等)

## (2) 本人を第一に考えた多職種連携

### <重点目標>

### ICT連携ツールを活用した連携体制を整備する

#### (情報部会)

- ①関係部署とも連携しつつ、ICT導入に向けた計画を協議する  
(今年度科学技術戦略課にて実証実験予定)
- ②専門職が連携に必要な社会資源等の情報把握  
(高齢者の地域包括ケアのためのミニ知識2024)
- ③つくば市在宅医療と介護のサービスマップ・介護保険情報誌ハートページ・高齢者の地域包括ケアのためのミニ知識2024の発行

#### (研修・意見交換部会)

- ① 実践に繋がる研修会を実施する
- ②医療と介護の連携を高めるため、専門職間の意見交換会を実施する

## (3) 専門職のスキルアップとやりがい

### <重点目標>

研修会や意見交換会を通じて、各職種の役割の理解を深めケース支援に生かす

### (研修・意見交換部会)

- ①実践に繋がる研修会を実施する
- ②医療と介護の連携を高めるため、専門職間の意見交換会を実施する

## (4) 認知症になっても安心して暮らせる地域 (他事業・協議体での重点事項)

- ・ 認知症サポーター養成講座、チームオレンジ活動
- ・ 認知症カフェ
- ・ 認知症地域支援推進員の活動推進
- ・ 認知症初期集中支援チームの開催
- ・ 認知症本人、家族ミーティングの開催
- ・ つくば市「おでかけ見守りシール」の配布

## (5) 多様な生活の場の提供 (県・高齢福祉課事業含む)

- ・在宅医療サービスの基盤を整備する (在宅医療基盤整備事業、地域ケア基盤整備推進事業等)
- ・介護保険施設の整備

## (6) 相互に支え合う生活支援・介護予防 (他事業・協議体での重点事項)

- ・居場所づくり (高齢者憩いの広場、ふれあいサロン) の充実
- ・介護予防事業の実施 (介護予防・生活支援サービス事業、一般介護予防事業)
- ・買物弱者への支援

## (7) 誰一人取り残さない (他事業・協議体での重点項目)

- ・地域包括支援センターの相談体制の充実
- ・実態把握訪問の実施 (低栄養支援該当者、健診未受診等)
- ・介護力が脆弱な家庭、認知症及び精神疾患の早期発見早期対応

# Check 対応策の評価

## ありたい姿の進捗管理

### 重点評価指標

- ・在宅医療の認知度（一般高齢者、介護保険認定者、若年者）
- ・要介護高齢者の介護サービスへの満足度
- ・要介護認定者の幸福度
- ・家族の介護負担感（要介護1以上）
- ・今後も働きながら介護を続けていける人の割合
- ・ケアマネジャーと医療機関との連携状況
- ・ケアマネジャーの仕事の満足度

## ACT 改善

- ・各実務部会で振り返り評価の実施
- ・第2回つくば市在宅医療・介護連携推進協議会において、実施状況及び課題の検討を行う

## 令和6年度 年間予定（資料4参照）

- ・つくば市在宅医療・介護連携推進協議会（年2回）
- ・つくば市在宅医療・介護連携推進協議会 実務部会（各部会 2回程度）

【在宅医療・介護連携推進事業の具体的な取り組み】

- (ア)地域の医療・介護の資源の把握
- (イ)在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
- (ウ)切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進
- (エ)医療・介護関係者の情報共有の支援
- (オ)在宅医療・介護連携に関する相談支援
- (カ)医療・介護関係者の研修
- (キ)地域住民への普及啓発

部会名称	主な内容	実務委員(議長○)	実務部会日程
1 (評価部会) 医療と介護のありたい姿 の評価指標検討部会(イ)	・ありたい姿の評価指標の進 捗管理及び課題抽出 ・高齢者福祉計画策定のため のアンケートの見直し及び課 題抽出	○田宮委員 長委員 濱野委員(協議会外)	7/12(金) 18:00-19:30 防災会議室(2)
2 (啓発講座部会) 在宅医療介護啓発講座 の企画・実施・評価部会 (キ)	・啓発講座の実施、講座内容及 び資料について検討	○飯岡委員 大河原委員 野澤委員 大久保委員 浅井委員 佐野委員	6/17(月) 18:45-20:00 会議室 203
3 (研修部会) 医療・介護専門職への研 修・意見交換会の企画・ 実施・評価部会(オ)(カ)	・在宅医療や地域包括ケアに 関する研修・意見交換会の企 画及び実施及び評価	○井ノ口委員 酒寄委員 大藤委員 立澤委員(協議会外)	6/26(水) 18:30-20:00 会議室 203
4 (情報部会) 情報集約・発信・共有検 討部会(ア)(エ)	・ICTシステム導入に向けた計 画の協議 ・地域の社会資源等の把握、情 報整理	○志真委員 大曾根委員 飯泉委員 飯沼委員 長沼委員(協議会外)	7/9(火) 18:00-19:30 防災会議室(2)
5 (連携拠点検討部会) 在宅医療に必要な連携 拠点検討部会(ウ)	・連携体制を構築する上での 課題を協議 ・協議会委員の構成について 検討	○成島委員 小關委員 根本委員 岩田委員 本多委員	7/25(木) 18:00-19:30 防災会議室(3)



## 会 議 録

会議の名称		令和6年度第2回つくば市在宅医療・介護連携推進協議会		
開催日時		令和7年(2025年)3月12日(水)18時45分～20時15分		
開催場所		つくば市役所 203会議室		
事務局(担当課)		福祉部地域包括支援課		
出席者	委員	飯岡幸夫委員、田宮菜奈子委員、長卓良委員、成島浄委員、志真泰夫委員、小關剛委員、井ノ口美樹子委員、大藤朋実委員、大曾根賢一委員、酒寄順委員、岩田直子委員、飯泉孝司委員、飯沼清委員、浅井知枝委員、野澤亮子委員、佐野洋子委員		
	事務局	福祉部：根本部長、相澤次長 保健部：黒田顧問 国民健康保険課：鈴木参事補 地域包括支援課：相澤課長、岡野課長補佐、市川係長、風見保健師、栗原主任、原田主事		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部公開
非公開の場合はその理由		傍聴者数 0人		
議題		(1) 令和6年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業報告 (2) 令和7年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会委員・実務部会について(案)		
会議次第	1 開会			
	2 あいさつ			
	3 議題	(1) 令和6年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業報告(資料1) (2) 令和7年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会委員・実務部会について(案)(資料2) (3) その他		
	4 閉会			

### 議事内容

事務局	<p>定刻になりましたので、只今より令和6年度第2回つくば市在宅医療・介護連携推進協議会を開会いたします。</p> <p>本日は、公私共にお忙しい中、つくば市在宅医療・介護連携推進協議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の司会を務めます地域包括支援課課長の相澤です。どうぞよろしく願いいたします。会議録の作成にあたり、当協議会での発言</p>
-----	---

	<p>内容を録音させていただきますので、あらかじめ御了承いただきますよう、よろしくお願いいたします。では、次第に沿って進行させていただきます。開会にあたり、飯岡会長より御挨拶をお願いいたします。</p>
飯岡会長	<p>本日は令和6年度第2回協議会になります。今年度の事業報告として、各部会から今年度の成果及び課題と来年度の方向性を報告させていただきます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>飯岡会長ありがとうございました。議事に入る前に事務局から会議の公開に関する連絡事項があります。当協議会について、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例により、この会議を公開とします。また、本日の資料確認をさせていただきます。資料は、次第、資料1、資料2となります。御確認をお願いいたします。それでは協議に移ります。会議の進行は、つくば市在宅医療・介護連携推進協議会開催要項第5条第1項の規定に基づき、会長が議長を務めることとなっておりますので、ここからは会長に進行をお願いしたいと思います。飯岡会長よろしくお願いいたします。</p>
飯岡会長	<p>それでは会議を始めさせていただきます。各実務部会の報告事項があると思いますが、何か御質問や御意見等ありましたら、各部会の事業報告が終了した後で、一括してお伺いしますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、資料1をご覧ください。議題(1)令和6年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業報告について、各事業部会の議長より約10分以内で説明をお願いいたします。まず評価部会、田宮委員お願いします。</p>
田宮委員	<p>評価部会では、医療と介護のありたい姿の評価指標検討ということで活動してまいりました。部会は、第1回が7月、第2回が12月に開催いたしました。第1回では重点評価指標の見直し、特に在宅医療の認知度について、要介護認定者の幸福度について議論いたしました。それから第8次茨城県保健医療計画に関わる指標について議論して参りました。第2回では、引き続き第8次保健医療計画に関する指標について協議し、ケアマネジャーと医療機関との連携ということにフォーカスし、お話を進めて参りました。協議内容の詳細は鈴木さんのからお話していただければと思います。</p>

事務局	<p>鈴木の方から、主に重点評価指標の見直しについて、説明をさせていただければと思います。まず1つ目の在宅医療の認知度についてですが、聞き方が「在宅医療について御存じですか」という少し漠然とした聞き方になっているのではないかと、といった課題がありました。それについて聞き方を変えてもう少し在宅医療の細かい中身、例えば訪問看護ですとか訪問診療ですとか、そういった聞き方にしたほうが良いのか、それともこのままで良いのかということを検討しておりました。</p> <p>事務局の確認作業で「在宅医療について御存知ですか」という設問と「訪問看護について御存知ですか」という2つの設問が入った要介護認定更新時のアンケートから、2つの設問についての認知度の相関を確認しました。そうすることで、在宅医療を知っているということは訪問看護も知っているのか、それとも訪問看護を知っていたとしても在宅医療という聞き方だと曖昧で分かりづらいのかといったことで、それぞれの認知度の関係を見てみました。その結果について評価部会で共有させていただき、委員の方々に御意見をいただきました。結果としましては、在宅医療の認知度と訪問看護の認知度は相関が高い、つまり、在宅医療を知っていれば、詳しいサービス、訪問看護も知ってるということになりましたので、このまま「在宅医療について御存知ですか」という設問で進めていくことになりました。</p> <p>2つ目の要介護認定者の介護サービスへの満足度ですが、この設問、指標の問題点としまして数値の変動が大きいという点があげられました。回答者については本人以外が代理で回答している場合がありますのですが、その影響があるのではないかとということが懸念としてありました。その為、要介護度が低い方に限定して聞いたほうがいいのかというように考え、回答者ごとの介護サービス満足度の関係を確認しました。その結果を第1回部会で委員の方に共有して御意見をいただきました。結果としまして、回答者によって満足度の結果に大きな違いがなかったため、本人以外が代理で回答することが満足度に及ぼしている影響は少ないと考えることができ、引き続き対象者を要介護度が低い方に限定せず今までとおりに進めていくことになりました。第2回目としましては、重点評価指標の中でケアマネジャーと医療機関との連携という指標について見直しを行いました。こちらは、第1回部会で第8次保健医療計画に関連した指標として医療レセプトといったデータから取れる退院・退所加算等の活用を進めていこうかという話があり、重点評価指標の方でも補</p>
-----	---

	<p>助的に連携の指標としてレセプトから取れるデータを指標として活用するのはどうかという方針が立てられました。そこで連携の指標として医療・介護レセプトから算出できそうな指標をリストアップし、委員の方に御意見をいただき、連携に係る指標はどれかというところの御意見をいただきました。その結果、入院時、退院時、日常療養時、緊急時におきまして、ここに記載があるような加算が連携を表している加算ではないかという御意見をいただきましたので、来年度は連携の指標として、レセプトからの指標も活用していければというようになりました。以上になります。</p>
田宮委員	<p>ではまとめのスライドになります。今年度は第8次保健医療計画も考慮して連携の指標等を見直し、医療・介護レセプトから算出できるデータを指標として活用するということになりました。課題としては、他の部会に役立つようなことができていないということがあがっております。次年度の方向性としては、引き続き現状値の収集や分析を行い、他の部会にも発信していくこと、また、在宅医療の認知度については引き続き指標の算出を行い、ケアマネジャーと医療機関の連携状況については、先程申し上げたようなレセプトから取れるデータを指標に入れていくということになりました。また、連携について各職種ごとの認識を確認する為、協議会委員の皆様にご協力いただき、在宅医療の4つの場面ごとの連携状況を問うアンケート調査を検討していこうということになりました。在宅医療の認知度については依然として低い状況ですので、普及・発信する方法を他部会とも共有させていただいて進めて参りたいと思います。評価部会からは以上です。</p>
飯岡会長	<p>続きまして、啓発講座部会です。第1回部会が6月17日、第2回部会が11月27日にそれぞれ開催されています。第1回の協議内容は、令和6年度の在宅医療介護啓発講座の企画、啓発講座(講演会)、出前講座、オンライン講座、わたしの生き方ノートについて。第2回の協議内容は、令和6年度の在宅医療介護啓発講座の実施状況について、それから令和6年度の振り返り及び令和7年度の方向性についてです。詳細につきましては、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事務局より協議内容の説明をさせていただきます。令和6年11月10日(日)荃崎交流センターにて、啓発講座として在宅医療に関する講演会を開催しております。当日は1部で「自分と家族の明日を</p>

考える～住み慣れた地域の中で～」と題し、あいつくばクリニック院長の福江先生から在宅医療について、また市のエンディングノートを編集している株式会社鎌倉新書からエンディングノートの書き方・活用法について、それぞれ講演をいただきました。2部では、終活に関する専門業者の個別相談会を開催しました。申込者は62名で実際に受講された方は52名となっています。受講された方からは、在宅医療に関しては「実際の在宅医療の様子が分かった」「在宅医療に無関心だったが考え直すことができた」という感想の他、親が在宅医療を望んだ場合に向けて講演会に参加して下さったという方もいらっしゃいました。エンディングノートの書き方講座に関しては、「エンディングノートを活用しながら終活を始めてみたい」など、今回の講演会が終活を始めるきっかけに繋がるような感想をいただきました。次のスライドでは、各地域包括支援センターで企画しました在宅医療・在宅介護の出前講座について、つくば市出前講座の今年度の実績をそれぞれ挙げています。また、その次のスライドでは、講演会を含めた啓発講座と出前講座の実績の年次推移を表にしています。例年、啓発講座は圏域単位で開催しており、出前講座はつくば市で実施しているもののみでありましたが、今年度は地域包括支援センターと連携することで、多くの地域で講座を開催することができました。また、啓発講座として開催していたものを在宅医療講演会とすることで、例年の啓発講座よりも大規模なものになり、多くの方に在宅医療・在宅介護について周知することができました。今年度のエンディングノートの配布状況ですが、令和7年2月25日時点で820冊配布されています。周知方法としては、ホームページ、市の広報紙の他、地方情報誌でも周知を図っています。配布者の年代で一番多い年代は70代、全体の約37%、次いで80代、全体の約30%となっています。エンディングノートを希望した理由としては「自分の将来に備えるため」「内容に興味があったため」という理由が多くなっています。その他の理由としては、「忘れやすいから」「友人に聞いたから」「広報で見たから」「窓口で見かけたから」「知人に勧められたから」「包括と繋がりを持ちたかったから」「在宅医療講演会でノートの存在を知り、家族にも勧めるため」「独居の友人に渡すため」といった理由が挙げられました。オンライン講座についてですが、在宅医療編が令和3年11月21日から、在宅介護編が令和4年12月27日から配信開始しており、令和7年2月25日時点で在宅医療編の延べ再生回数は1,608回、在宅介護編の延べ再生回数は379回となっています。

<p>飯岡会長</p>	<p>内容の補足説明、事務局からは以上です。</p> <p>私の方から成果及び課題、次年度の方向性について説明いたします。成果としては、在宅医療に取り組んでいる医師を講師に迎え、エンディングノートの書き方講座との2部構成で講演会を実施し、市民に在宅医療とACPについて普及啓発ができた。各地域包括支援センターと連携することで、昨年度より細かな単位での啓発講座を開催することができ、開催回数と参加人数が大幅に増加した。わたしの生き方ノート配布者を対象としたアンケートを電子だけでなく紙面でも回答できるよう様式を変更したが、回収率に変化は見られない。次年度方向性については、引き続き在宅医療普及啓発のための講座、講演会を企画、実施していく。わたしの生き方ノートについては、引き続き作成、配布をしていく。わたしの生き方ノート記入後のアンケートの回収率が低く、手に取って満足してしまう方が多いのではないかと考えられることから、次年度も書き方講座の開催を検討する。オンライン講座は来年度以降内容の見直しを行っていくことを検討する。以上です。</p> <p>では、次に研修・意見交換部会、井ノ口委員お願いします。</p>
<p>井ノ口委員</p>	<p>研修・意見交換部会から報告いたします。</p> <p>今年度の部会は全4回開催しております。今年度は主に、多職種の意見交換会を中心に活動してまいりました。第1回の多職種連携意見交換会は10月31日（木）18時30分～20時で、ACPを含めた内容で「シームレスな連携に向けた課題」というテーマで、病院の退院調整看護師、ケアマネジャー、地域包括支援センターの管理者という各専門職を講師として呼びしてお話をいただき、それを踏まえて多職種でグループワークを行いました。参加者は50名でした。第2回の多職種意見交換会は、1月24日（金）、前回と同じ時間で開催しております。第1回と同様のテーマで、ケアマネジャー、地域包括支援センターの管理者、病院の連携調整室に所属する理学療法士の方からお話いただき、その後グループワークを行っております。参加者は45名です。グループワークでは、それぞれが抱えている思いや課題について話し合えた他、それぞれの立場、抱えている課題を知ること、連携を図る上でのヒントが得られたというような意見が参加者から聞かれました。意見の中には、薬剤師の方と連携を取りたいという考えはみんな同じなのだという気づきがあったというものや、顔の見える関係ができた、もっと他職種の方と</p>

	<p>話しをしたいという意見もいただきましたので、意見交換会という形で開催したのが良かったのではないかと考えています。成果及び課題についてですが、今年度は多職種間の関係性を深めるために意見交換会をメインとし、実際に現場で支援にあたっている専門職の生の声をいただくという形で、それぞれの職種が感じている課題を聞いた上で、ACP も盛り込んだ研修会を実施しました。グループワークの時間を長く設けることで顔の見える関係づくりができたのではないかと思います。研修時間が短いという意見もありましたので、今後については研修時間検討する必要があると思います。次年度の方向性としましては、引き続き意見交換の時間を設けつつ、在宅医療の4場面をベースとした研修会を企画していくこと、より多くの職種の方々が参加できるよう、平日夜間に開催していた研修会を休日の日中帯に開催するといったことも検討していきたいと思っています。以上です。</p>
飯岡会長	<p>続きまして、情報部会、志真委員からお願いします。</p>
志真委員	<p>情報部会では、部会と ICT 連携ツール導入作業チーム、それぞれ2回ずつ活動しております。部会では、主に紙媒体での情報発信を活動内容としており、今年度は医療機関を対象に、ホームページ、在宅医療と介護のサービスマップがどのように活用されているのか調査を行い活用状況や意見を確認することができました。その調査結果を踏まえて次年度の編集や配布数、活用方法の周知に活かしていきたいと思っています。</p> <p>ICT 連携ツール導入作業チームでは、1 回目に〇〇市、〇〇市等で導入している電子@連絡帳、2 回目に〇〇市、〇〇市等で導入しているカナミックそれぞれのデモンストレーションを行っております。その他 ICT 連携ツールを活用している近隣市へ視察を行い、実態を確認できたことが今年度の成果とります。次年度の方向性としては、令和8年度から ICT 連携ツール導入に向けて準備を進めていくこととなります。以上です。</p>
飯岡会長	<p>続きまして、連携拠点検討部会、成島委員よりお願いします。</p>
成島委員	<p>連携拠点検討部会は、第1回を7月25日に、第2回を11月12日に行いました。第1回の協議内容は、連携体制の課題について、令和7年度実務部会・協議会委員の構成について話し合いました。第</p>

	<p>2回の協議内容は、令和7年度実務部会・協議会委員の構成について、令和6年度の振り返り及び令和7年度の方角性について話し合いました。成果は、令和7年度実務部会の構成について協議できたこと、次年度の方角性については、連携拠点検討部会と評価部会を統合し協議を継続していくこととなります。以上です。</p>
飯岡会長	<p>今まで報告していただきました事業内容について、何か御質問や御意見ありましたらお願いいたします。</p>
志真委員	<p>啓発講座部会のオンライン講座ですが、リアルタイムのオンライン講座となりますか。それともオンデマンド配信のものになりますか。</p>
事務局	<p>オンデマンド配信となります。</p>
志真委員	<p>この再生回数を見ると少ないように感じます。どうすれば見てもらえるのかというところも考えながら、動画時間も短いものの方が見やすいかと思ひます。</p>
事務局	<p>いただいた御意見を参考に、来年度以降内容の見直しを図ってきたいと思ひます。</p>
飯岡会長	<p>その他に何かありますか。</p>
小關委員	<p>まず1つ目、在宅医療と介護のサービスマップの内容についてですが、啓発講座部会の成果で、啓発講座の開催回数と参加人数が大幅に増加し、在宅医療について普及啓発ができたとしている一方で、在宅医療講演会受講者の意見では、在宅医療の施設はつくば市に充分にあるのか、という意見が出ていますよね。サービスマップは在宅医療についての説明等が載っているんですか。それとも在宅医療を行っている医療機関の一覧が載っているんですか。一覧が載っているのだとしたら市民の方に上手く周知ができていないのかなと思ひのですが。</p> <p>2つ目、情報部会で協議されていたICT連携ツールについてですが、令和8年度導入予定とのことですが、これは導入するシステムまで決まっているんですか。もしくはカナミックや電子@連絡帳以外の新しいシステムを探しているのでしょうか。</p>

事務局	<p>3つ目、研修・意見交換部会について、グループワークの時間を多く設けた一方で、他職種に聞いてみたいことを聞く時間が欲しかったという意見がありますが、そのような意見が挙げられた理由はなぜなのかなというところです。</p> <p>在宅医療の講演会の中で在宅医療の施設はつくば市に充分あるのかという意見・感想をいただいたこと併せてサービスマップの内容についてですが、サービスマップは訪問診療や往診を行っている医療機関の一覧を載せており、訪問診療と往診の違いの説明文も掲載しております。今年度は出前講座の回数を前年度より多く開催し、講座の中でサービスマップの内容についてもお話をさせていただいておりますが、このような意見・感想をいただくということは、まだまだ周知活動が行き届いていないところがあるのかと感じますので、来年度も引き続き、出前講座、啓発講座の中でサービスマップを活用していただけるようなお話をしていきたいと考えています。</p> <p>ICT 連携ツールについて、どういったシステムの導入を市として考えているのかという御質問ですが、これに関しては今年度情報部会で協議させていただいておりますが、どういったものを入れていくのか、どういった活用方法が必要なのか、庁内の関係各課とも協議を進めているところです。今の時点でどのシステムを導入するのかはまだ明確にはなっておりませんが、多職種連携だけにとどまらない活用ができるものを入れていこうと考えております。</p>
志真委員	<p>説明を加えますと、令和5年度、周辺市町村でどのシステムを導入しているのか調査をしております。周辺市町村はカナミックと電子@連絡帳を使っているんですね。その中でつくば市だけが別のシステムを導入するのはよろしくないと思います。周辺の状況を鑑みると導入するシステムはこの2つに絞られてくると思います。電子@連絡帳は自治体としては使いやすいものだと思いますが、例えばケアマネジャーに聞くと、自治体の規制の関係で書類自体は結局書面での提出が必要と言われてしまうようなんですね。そうなるにつくば市自体の規制をどうしていくのかというところを考えていかないといけないと思います。</p>
事務局	<p>研修・意見交換部会のグループワークについての意見に関しましては、同じグループ内での意見交換は十分にさせていただけたと思われ</p>

	<p>ますが、グループをシャッフルして意見交換を行うといった時間まで設けることはできなかったので、グループ外の専門職とも幅広く交流を持ちたかったという御意見なのではないかと考えられます。また、参加希望でも研修会が平日の夕方以降ということで参加できない方もいらっしゃる可能性もありますので、今後グループワークのやり方や開催日時等検討していきたいと思います。</p>
小関委員	<p>グループワークのやり方として、グループメンバーを1人残し、それ以外の方がグループを移動するというやり方はどうでしょうか。そのようにして自分たちのグループではどのような話し合いがされたということを共有することでより多くの方と意見交換が可能になるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>いただいた御意見を参考にさせていただきます。</p>
飯岡会長	<p>他にありますか。 ないようですので、次の議題に移ります。 資料2を御覧ください。議題（2）令和7年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会委員・実務部会について（案）、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>令和7年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会委員・実務部会について（案）の説明をさせていただきます。現在の委員の任期が今年度までであることから、協議会委員と部会の再編を図りました。医療と介護のありたい姿ロードマップで掲げているように、医療と介護を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい人生を最期まで続けることができるよう、実情に即した活動を行うため、連携拠点検討部会で協議いただいた内容を踏まえて、令和7年度以降は4つの実務部会で事業を推進していきたいと考えております。</p> <p>【評価検討部会】では、在宅医療と介護の連携上の課題の抽出と対応策を検討するため、また、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進のため、ありたい姿の実現に向け評価指標の進捗管理と課題抽出、そして課題を各部会へ発信していくことを主な活動内容とします。</p> <p>【市民向け普及啓発部会】では、在宅医療について市民へ普及啓発を行うため、在宅医療や在宅介</p>

	<p>護、ACP 等の啓発講座を企画・実施すること、ハートページ・在宅医療と介護のサービスマップといった冊子として情報発信することを主な活動内容とします。</p> <p>【専門職向け意見交換・研修部会】では、医療・介護関係者の顔の見える関係性の構築・連携の質向上のため、在宅医療の4つの場面に関する研修・意見交換会を企画・実施することを主な活動内容とします。</p> <p>【情報部会】では、医療・介護関係者の情報共有の支援、地域の医療・介護の資源の把握のため、ICT 連携ツール導入に向けた体制整備と専門職向けの社会資源情報の整理を行うことを主な活動内容とします。</p> <p>これらの活動を行うため、協議会委員・実務部会は資料に記載してありますとおり事業所・団体に構成していきたいと考えております。今までの活動内容を引き継ぎながら、課題に応じた医療と介護の連携推進に取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
飯岡会長	<p>只今の説明内容につきまして、何か御質問がございましたらお願いします。</p>
成島委員	<p>まず、これまでの協議会委員の構成と異なる点をもう少し詳しく教えていただけますか。それから情報部会の ICT 連携ツールに関して、令和8年度から導入ということであれば、令和7年度の秋には予算獲得しておかないと間に合わないと思うのですが。</p>
事務局	<p>予算につきましては、令和7年度の6月に新規拡充調書の提出を考えておまして、その為に現在 ICT 連携ツールの活用を検討している関係部署と協議を進めているところです。</p> <p>協議会委員についてですが、今までの事業所・団体の他、新たに障がい関係の事業所、つくば市消防本部を加えることを予定しております。理由としましては、県の保健医療計画において、つくば市が「在宅医療に必要な連携を担う拠点」となっておりますが、拠点として障害分野の事業所と災害時も含めた連携上の課題を協議することが求められており、そのような観点から障害、消防分野との連携を図るために協議会委員に加えていきたいと考えております。その他、今まで退院調整看護師の会は協議会外として実務部会にのみ参加いただいておりますが、医療と介護の連携という部分で、病</p>

	<p>院で退院調整に携わっている方の意見は必要不可欠と考えておりますので、令和7年度からは協議会委員として御協力いただくよう委員に加えていきたいと考えております。また、協議会委員の構成につきまして、市民委員の記載が漏れており申し訳ございません。引き続き市民委員の方も協議会委員として御協力いただきたく、構成に含めさせていただいております。</p>
小関委員	<p>市民委員の方の人数ですとか、全体的に集約していくという話は連携拠点検討部会でも話が出ていたかと思うのですが、その部分もお話しいただきたいということと、あと、評価検討部会ですが、どのような活動をしていくか、イメージが湧きにくいのですが、そのような中で連携拠点部会はこの協議会の在り方を検討していくという部分で必要なのではないかと思います。もう少し評価検討部会で行っていくことを具体的に示してほしいと思います。</p>
事務局	<p>連携拠点検討部会でも協議されましたように、市民委員の配置に関しましては、より市民委員として力を発揮していただける部会へ配置を再編したいと考えております。各実務部会の具体的な活動内容につきましては、令和7年度第1回の協議会でお示しさせていただきたいと思います。</p>
成島委員	<p>確認ですが、今までの評価指標検討部会というものは、評価をするための部会であって、出た課題や指標についてどうするということが議論されない傾向にあったところを、今後連携拠点検討部会と組み合わせることによって、課題に対しどのようにしていこうかということを協議する機能も組み込んだということでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
志真委員	<p>情報部会についてですが、ICTに関しては作業チームで詰めていくことになるのですか。それから市民委員の方々は今後は市民向け普及啓発部会に移るということになるのでしょうか。</p>
事務局	<p>令和7年度からは、ICT連携ツール導入作業チームの役割は情報部会が引き継ぐこととし、今まで情報部会で行ってまいりました、ホームページや医療と介護のサービスマップといった市民向けの情報</p>

	<p>冊子に関しましては市民向け普及啓発部会で引き継いでいくことを検討しております。市民委員の方々も市民向け普及啓発部会で活動していただく方向で考えております。</p>
志真委員	<p>部会の活動内容を委員に詳しく説明したうえで、どの部会での活動を希望するか、委員の意向を確認して配置するという方法がいいと思うのですが。</p>
事務局	<p>参考とさせていただきます。</p>
飯泉委員	<p>市民委員として情報部会に入っているんですけども、実は ICT の話については難しいところがあります。今後市民委員につきましては、在宅医療・在宅介護関係に明るい方、経験がある方に参加いただくのはどうでしょうか。事務局側で面接していただいて、そういった方を選考いただくのがいいかと思います。例えば民生委員の中には理学療法士をされている 20 代の方もいますので、そういった方に入っていた方がいいのではと思います。</p>
飯岡会長	<p>貴重な御意見ありがとうございます。事務局にはこの御意見を参考に令和 7 年度の協議会委員と実務部会について検討いただきたいと思います。</p>
事務局	<p>市民委員の選考に関しましては、公募させていただいております。面接審査も済み、すでに令和 7 年度の委員を決定させていただいております。また、ICT 連携ツールに関して補足ですが、令和 7 年度の 6 月に新規拡充と先程お伝えしたところですが、あくまで現時点では予算の枠を押さえるということになりますので、併せてシステムの選定についても考えていきたいと思っております。</p>
飯岡会長	<p>はい、では次の議題に移ります。 議題（3）その他としまして、事務局から何かありましたらお願いします。</p>
事務局	<p>当課で出席しました外部の会議について、本来であればつくば保健所所長、本多委員から御説明いただくべきところでしたが、本日御欠席のため事務局から簡単に報告させていただきます。 1 月 21 日、つくば保健所主催の在宅医療連携体制検討会議に出席、</p>

	<p>3月3日、茨城県地域包括ケア推進センター主催の郡市等医師会・市町村連携協議会に出席しました。郡市等医師会・市町村連携協議会では、茨城県在宅医療連携体制検討会議の設置についての説明の他、「在宅医療において積極的役割を担う医療機関」及び「在宅医療に必要な連携を担う拠点」に求める当面の役割についての説明、市町村の取組についての事例発表がありました。「在宅医療に必要な連携を担う拠点」に求められる役割として、在宅医療・介護連携推進事業において実施する取組と連携し、地域の関係者による会議を定期的を開催し課題の抽出及び対応策の検討等を実施すること、となっておりますので、本協議会の取組を継続していきたいと考えております。また、つくば保健所圏域の市町村が集まった1月21日の在宅医療連携体制検討会議では、各市の在宅医療・介護連携推進事業に関する実施状況と課題の共有、意見交換を行っています。意見交換の中では、つくば保健所からICT連携ツールに関して、広域連携に向けたツールを導入できるといいのではないかとという意見が上がりました。先程もお伝えしましたように、ICT連携ツールの導入と活用に関しましては、今年度情報部会で協議を進めてきたとともに、庁内関係各課とも活用方法について協議を進めており、令和8年度の導入に向け、引き続き準備を進め適宜本協議会で情報共有させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。以上です。</p>
<p>飯岡会長</p>	<p>その他委員から何かありますか。 ないようですので、進行を事務局にお返しします。進行の御協力ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>飯岡会長ありがとうございました。本協議会委員の任期は、令和7年3月31日までとなっております。委員の皆様には長きに渡り、本市の在宅医療・介護連携推進事業に御協力を賜りまして、この場をお借りして深く御礼を申し上げます。本日の協議会の御意見を念頭に置き、引き続き在宅医療・介護連携推進事業を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。以上をもちまして、令和6年度第2回つくば市在宅医療・介護連携推進協議会を閉会とさせていただきます。本日は長時間に渡り御協議いただき、ありがとうございました。</p>

令和6年度第2回つくば市在宅医療・介護連携推進協議会次第

日時：令和7年（2025年）3月12日（水）

18時45分～20時15分

場所：つくば市役所 会議室203

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 令和6年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業報告（資料1）

(2) 令和7年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会委員・実務部会について（案）  
（資料2）

(3) その他

4 閉 会



資料 1

令和 6 年度 第2回

在宅医療・介護連携推進協議会  
～事業報告～

令和 7 年 3 月 1 2 日 (水)

# 1 医療と介護のありたい姿の評価指標検討部会

(評価部会)

## 部 会 内 容

<b>第1回部会</b> 令和6年7月12日（金）	協議内容 ・ 重点評価指標の見直しについて （在宅医療の認知度、要介護認定者の幸福度） ・ 第8次茨城県保健医療計画に関する指標について
<b>第2回部会</b> 令和6年12月19日（木）	協議内容 ・ 重点評価指標の見直しについて （ケアマネジャーと医療機関との連携状況） ・ 令和6年度の振り返り及び令和7年度の方角性



# 第1回部会

## 【重点評価指標※の見直しについて】

### ※【重点評価指標】

在宅医療の認知度（要介護認定者）

要介護認定者の介護サービスへの満足度

要介護認定者の幸福度

家族の介護負担（要介護認定者：要介護1以上）

今後も働きながら介護を続けている人の割合（要介護認定者）

ケアマネジャーと医療機関との連携状況

ケアマネジャーの仕事の満足度（6/10以上）

重点評価指標	課題	方針案	確認作業	結果
在宅医療の認知度（要介護認定者）	「あなたは在宅医療についてご存知ですか？」という設問であり、聞き方が漠然としているのでは？	聞き方を変えた方が良いか、このままでいいか？	在宅医療の認知度について詳しく聞いている項目（「あなたは訪問看護についてご存知ですか」）があるので、その回答と在宅医療の認知度の相関を確認。	結果を評価部会で共有し、委員に意見をいただいた。 「在宅医療の認知度」と「訪問看護の認知度」の相関は高かったため、在宅医療の認知度については、このままの設問（「あなたは在宅医療についてご存知ですか？」）を進めていくことになった。
要介護認定者の介護サービスへの満足度	数値の変動が大きい。本人以外が代理で回答していることによる影響があるので	本人で答えることができる、要介護度が低い方に限定した設問にした方が良いか？	記入者（本人、家族、その他）と介護サービス満足度の関係を確認。	結果を評価部会で共有し、委員に意見をいただいた。 記入者によって満足度の結果に大きな違いはなかったため、本人以外が代理で回答することが満足度に及ぼしている影響は少ないと思われる。そのため、対象者を要介護度が低い方に限定せずこのまま進めていくことになった。

# 第2回部会

## 【重点評価指標の見直しについて】

- ※【重点評価指標】
- 在宅医療の認知度（要介護認定者）
  - 要介護認定者の介護サービスへの満足度
  - 要介護認定者の幸福度
  - 家族の介護負担（要介護認定者：要介護1以上）
  - 今後も働きながら介護を続けている人の割合（要介護認定者）
  - ケアマネジャーと医療機関との連携状況
  - ケアマネジャーの仕事の満足度（6/10以上）

重点評価指標	方針案	確認作業	結果
<p>ケアマネジャーと医療機関との連携状況</p>	<p>第1回部会において、第8次医療計画に関連した指標として「退院退所加算」の算定割合、「入院時情報連携加算」の算定割合を定めてたところだが、重点評価指標としても補助的に活用するのはどうか？</p>	<p>「連携」の指標として、「退院・退所加算」「入院時情報連携加算」以外にも医療・介護レセプトから算出できそうな指標をリストアップする。</p>	<p>部会の委員からご意見をいただいた結果、以下の指標が連携指標として良いだろうとの意見あり。</p> <p>-----</p> <p>（詳細は下記の表参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院時：入院時情報連携加算</li> <li>・退院時：介護支援等連携指導料、退院・退所加算</li> <li>・日常療養時：ターミナルケアマネジメント加算</li> <li>・緊急時：緊急時等居宅カンファレンス加算</li> </ul> <p>-----</p> <p>来年度は連携の指標として、上記指標も活用していく</p>



連携に関連する加算	加算の概要	指標の算出方法
<b>入院時情報連携 加算</b>	入院先の職員に対して、在宅ケアマネによる利用者の心身の状況や生活環境の当該利用者に係る必要な情報の提供を評価する加算	分子：当該加算算定者 分母：在宅介護サービスを利用している入院者
<b>介護支援等連携 指導料</b>	退院後に適切な介護等サービスを受けられるように、入院中から介護支援専門員などと連携して退院後のケアプラン等の作成につなげることを評価する加算	分子：当該加算算定者 分母：入院前から介護サービスを利用している退院者
<b>退院・退所加算</b>	医療機関を退院または介護施設等を退所して、在宅での生活に移行する利用者について、情報提供を受け、介護サービスの調整等を行うことを評価する加算	分子：当該加算算定者 分母：在宅に退院した要支援・要介護者(初回加算算定者以外)
<b>ターミナルケア マネジメント加算</b>	ターミナル期の利用者に対して状態変化の把握等を実施し、主治医や居宅サービス事業所へ情報提供を行っている居宅介護支援事業所を評価する加算	分子：当該加算算定者 分母：在宅で亡くなった者
<b>緊急時等居宅 カンファレンス加算</b>	利用者の治療方針や生活環境が大きく変化した場合に、医療機関の求めにより居宅カンファレンスを実施することで算定できる加算	分子：当該加算算定者 分母：在宅介護サービス利用者

## 成果及び課題

- ・ 8次保健医療計画も考慮した重点評価指標の見直しを行ない、従来の指標の他、医療介護レセプトを活用した新たな指標を加えることを検討した。
- ・ 8次保健医療計画に関連した指標を定めた。（入院時情報連携加算、退院・退所加算）
- ・ 他部会に役立つようなデータ活用、情報発信、連携が十分にできていない。

## 次年度の方向性

- ・ 「在宅医療の認知度（要介護認定者）」 「要介護認定者の介護サービスへの満足度」については、従来の設問で引き続き指標の算出を行い、「ケアマネジャーと医療機関との連携状況」については医療介護レセプトから算出した指標も活用していく。
- ・ 引き続き現状値の収集、分析を行い指標から見えてくる全体像や分析結果を他部会に発信する。
- ・ 連携について各職種ごとの認識を確認するため、協議会委員に協力を仰ぎ、在宅医療の4つの場面ごとの連携状況を問うアンケート調査を検討していく。
- ・ 依然として在宅医療の認知度は低い状況。分析結果を他部会に共有、発信することで認知度を上げるための普及啓発に繋げていく。

## 2 在宅医療介護啓発講座の企画・実施・評価部会

(啓発講座部会)

### 部 会 内 容

協議内容

**第1回部会**  
令和6年6月17日（月）

令和7年度の在宅医療介護啓発講座の企画について  
(啓発講座（講演会）、出前講座)  
(オンライン講座)  
(わたしの生き方ノート)

協議内容

**第2回部会**  
令和6年11月27日（水）

- ・ 令和6年度の在宅医療介護啓発講座の実施状況について  
(啓発講座（講演会）、出前講座)  
(オンライン講座)  
(わたしの生き方ノート)
- ・ 令和6年度の振り返り及び令和7年度の方角性



## 啓 発 講 座（講演会）

### 《プログラム》

#### 1部 講演

講演1：自分と家族の明日を考える～住み慣れた地域の中で～

講 師：医療法人あい友会 あいつくばクリニック院長

福江 眞隆 氏

講演2：終活 いつから始める？エンディングノートの活用法

講 師：鎌倉新書 エンディングサポーター（行政書士）

檜垣 圭祐 氏

#### 2部 面談ブース

参加事業所：・行政書士池田事務所

・香陵住販株式会社

・一般社団法人身元保証相談士協会

・つくば相続遺言相談センター

REAX司法書士法人つくば支店

・弁護士法人萩原法律事務所

・つくば成年後見センター

申込者：62名 受講者：52名

日時：  
令和6年11月10日（日）

13時～16時

場所：

荃崎交流センター

大会議室

## 《受講者の感想：在宅医療》

- ・ 10年前、5年前の父と母の介護時より在宅へのシフトがされていると感じました。
- ・ 実際の在宅医療の様子が分かった。
- ・ 在宅医療に無関心だったので考え直せた。
- ・ 在宅医療が一般的になって自宅で最期を迎えられるような社会になればいいと思います。
- ・ 在宅医療の施設はつくば市に充分あるのですか。
- ・ 在宅医療を親が望んだらと思い、参加しました。

## 《受講者の感想：エンディングノート書き方講座》

- ・ 悩ましい終活について講演を聞き、エンディングノートについて大分整理することができました。同時に“市”がある意味非常にプライベートな個人の“死”への支援や情報を周知してくれるという「社会の変化」にも驚いています。
- ・ 言葉は聞いていても、なかなかイメージしたことがなかったので、これからエンディングノートを活用しながら終活を始めたい。
- ・ 人生の振り返り、もう少し先に考えてみようと思いました。

各地域包括支援センター企画  
在宅医療・在宅介護 出前講座

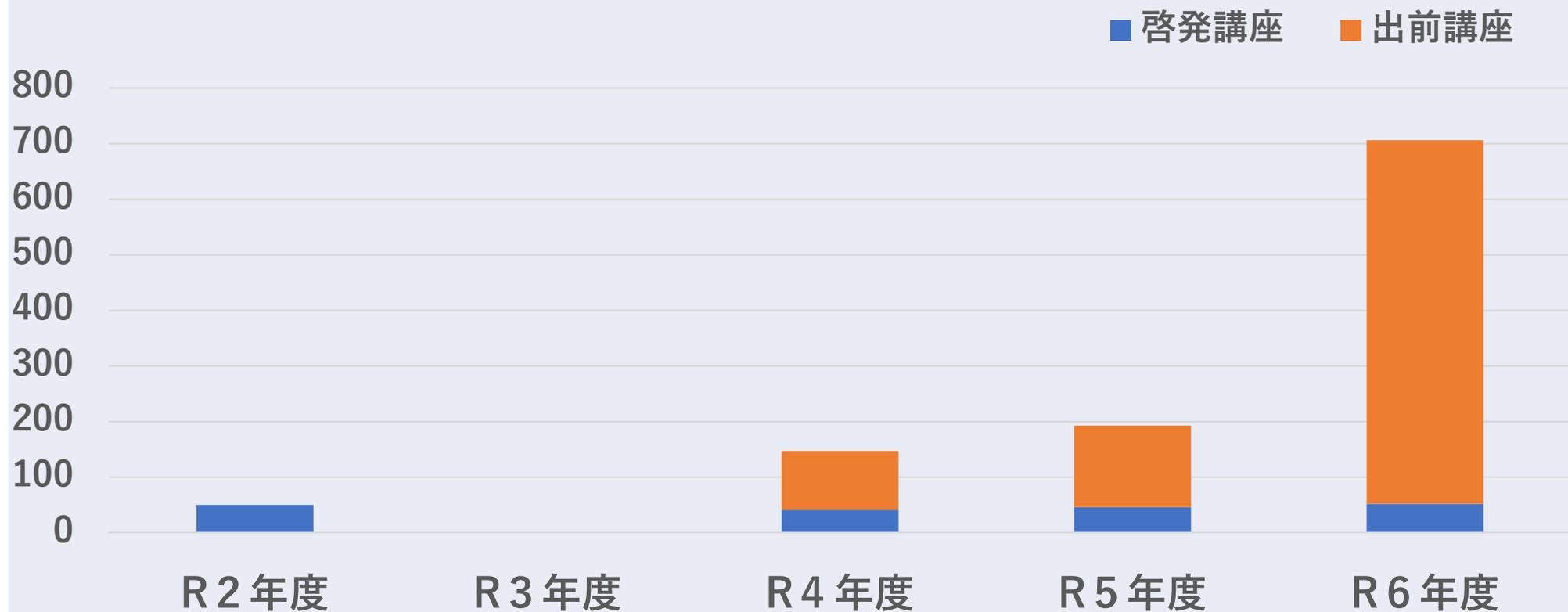
	月 日	申し込み団体	参加人数
1	9月17日 (火)	荃崎圏域ふれあい相談員懇談会	8
2	10月10日 (木)	まついちサロン	9
3	10月15日 (火)	筑波地区 (出前講座)	21
4	10月21日 (月)	松美会 (サロン)	16
5	12月6日 (金)	豊里シルバークラブ	60
6	12月13日 (金)	大穂圏域ふれあい相談員懇談会	18
7	R7年1月18日 (土)	サロンド カフェ (サロン)	15
8	1月23日 (木)	大穂シルバークラブ シルバー教室	77
9	1月30日 (木)	荃崎地区ボランティアふれあい交流会	57
10	3月3日 (月)	しば楽会	46
11	3月14日 (金)	筑波地区 (出前講座) (予定)	
12	3月21日 (金)	花畑シルバークラブ (予定)	
合計			327

令和6年度つくば市出前講座 在宅医療と在宅介護 ～住み慣れた家で人生の最後まで～			
	月 日	申し込み団体	参加人数
1	7月9日 (火)	つくば市大穂地区民生委員児童委員協議会	25
2	9月14日 (土)	パークハウスつくば研究学園区会	29
3	10月22日 (火)	筑波大学介護セミナー (大学職員・学生対象)	66
4	11月5日 (火)	ジャクセン さがみ典礼	13
5	11月26日 (火)	宝陽台・宝志会 (たすけあい組織)	20
6	12月13日 (金)	J A X A	72
7	R7年1月9日 (木)	つくば市豊里地区民生委員児童委員協議会	18
8	2月12日 (水)	国土地理院	84
合計			327

緑色：市民からの申し込み 16団体

オレンジ色：その他 4団体

# 啓発講座・出前講座の年次推移 (令和7年2月25日時点)



	R2年		R3年		R4年		R5年		R6年	
	回数	参加人数								
啓発講座	3	50	—	—	2	41	3	46	1	52
出前講座	—	—	—	—	4	106	6	147	20	654
合 計	3	50	—	—	6	147	9	193	21	706

\* R2・3年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、講座中止・見合わせあり

## わたしの生き方ノート（エンディングノート）配布

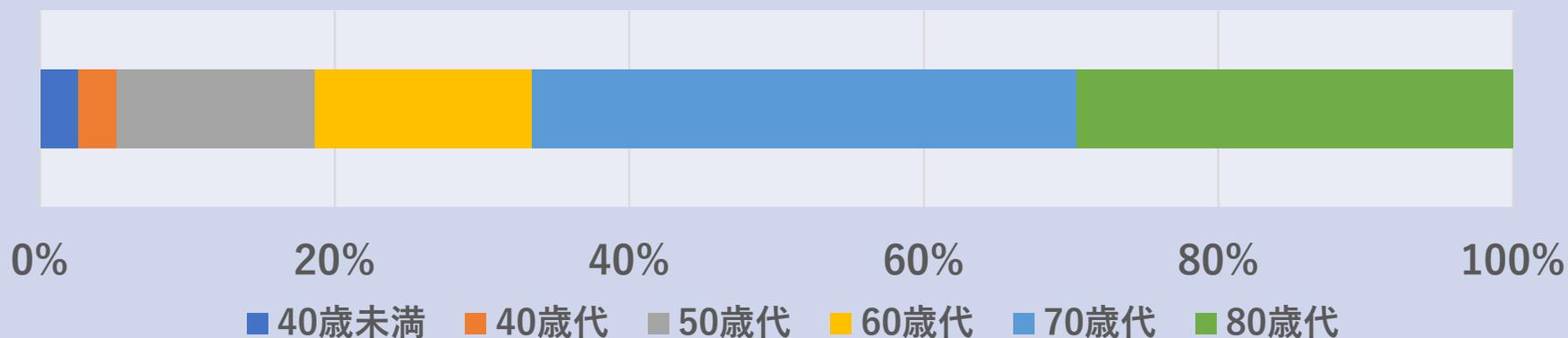
1,000冊作成→820冊配布（令和7年2月25日時点）

### 《周知方法》

ホームページ、市の広報誌の他、地方情報誌でも周知を図った

### 《配布者の年代》

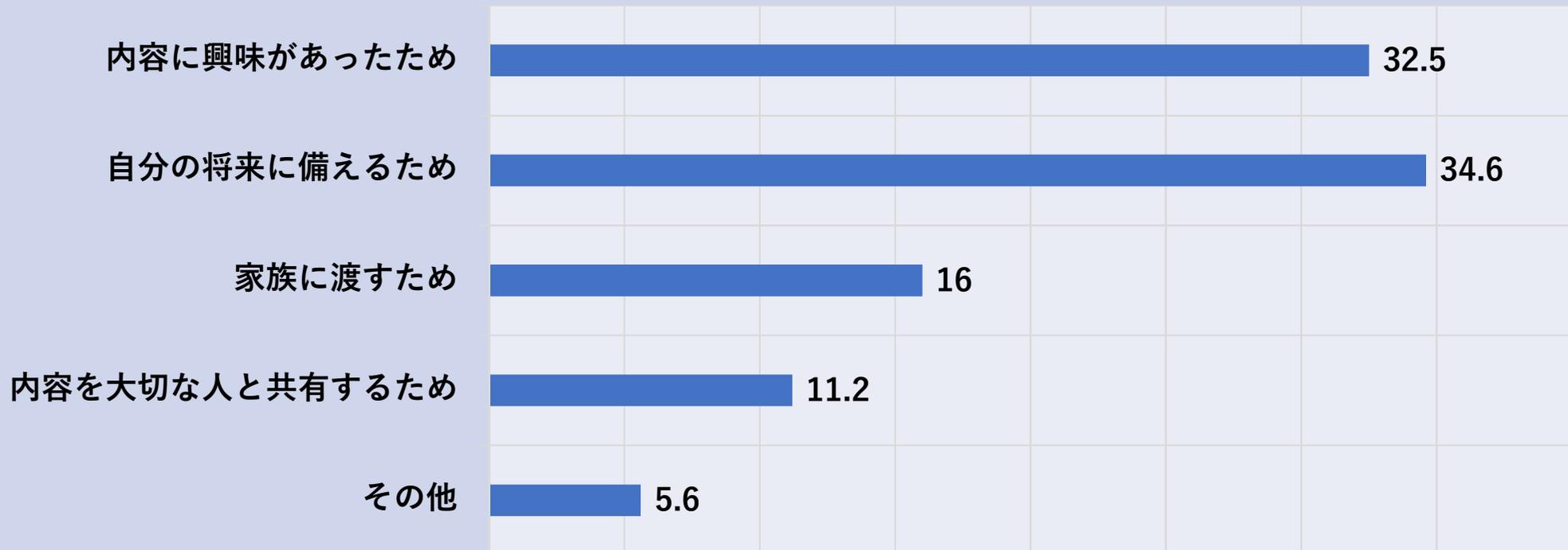
一番多い年代は70代（全体の約37%）



# わたしの生き方ノート（エンディングノート）配布

《配布時のアンケート》

ほしいと思った理由（%）



その他の理由：

忘れやすいから、友人に聞いたから、広報で見たから、窓口で見かけたから、知人に勧められたから、包括と繋がりをもちたかったから、在宅医療講演会でノートの存在を知り家族にも勧めるため、独居の友人に渡すため

## オンライン講座 延再生回数 (令和7年2月25日時点)

- ・在宅医療編 (令和3年11月21日から配信中) : 1,608回
- ・在宅介護編 (令和4年12月27日から配信中) : 379回

(参考) 令和6年1月31日時点の再生回数

- ・在宅医療編 : 1,441回
- ・在宅介護編 : 306回



## 成果及び課題

- ・在宅医療に取り組んでいる医師を講師に迎え、エンディングノートの書き方講座との2部構成で講演会を実施し、市民に在宅医療とACPについて普及啓発ができた。
- ・各地域包括支援センターと連携することで、昨年度より細かな単位での啓発講座を開催することができ、開催回数と参加人数が大幅に増加した。
- ・わたしの生き方ノート配布者を対象としたアンケートを電子だけでなく紙面でも回答できるよう様式を変更したが、回収率に変化は見られない。

## 次年度の方向性

- ・引き続き在宅医療普及啓発のための講座、講演会を企画、実施していく。
- ・わたしの生き方ノートについては引き続き作成、配布をしていく。
- ・わたしの生き方ノート記入後のアンケートの回答率が低く、手にとって満足してしまう方が多いのではないかと考えられる。このことから次年度も書き方講座の開催を検討する。
- ・オンライン講座は来年度以降内容の見直しを行う。

### 3 医療・介護専門職への研修・意見交換会の企画・実施・評価部会（研修・意見交換部会）

#### 部 会 内 容

<b>第1回部会</b> 令和6年6月26日（水）	協議内容 ・ 第1回専門職への研修・意見交換会の企画について ・ 第2回専門職への研修・意見交換会の企画について
<b>第2回部会</b> 令和6年9月12日（木）	協議内容 ・ 第1回「多職種連携意見交換会」について ・ 第2回専門職への研修・意見交換会の企画について
<b>第3回部会</b> 令和6年12月13日（金）	協議内容 ・ 第1回「多職種連携意見交換会」の振り返り ・ 第2回「多職種連携意見交換会」について
<b>第4回部会</b> 令和7年1月24日（金）	協議内容 ・ 第2回「多職種連携意見交換会」の振り返り ・ 令和6年度の振り返り及び令和7年度の計画

# 第 1 回 多 職 種 連 携 意 見 交 換 会

日時：

令和6年10月31日（木）

18時30分～20時

## 《テーマ》

シームレスな連携に向けた課題

- 講師：
- ・筑波メディカルセンター病院  
退院調整看護師 小林 美喜 氏
  - ・居宅介護支援事業所幸寿苑  
主任介護支援専門員 篠崎 雄高 氏
  - ・荃崎地域包括支援センター  
管理者 大塚 俊実 氏

参加者：50名

（ケアマネジャー、訪問看護師、退院調整看護師、薬剤師、ヘルパー、MSW、地域包括支援センター）

## 第 2 回 多 職 種 連 携 意 見 交 換 会

日時：  
令和7年1月24日（金）  
18時30分～20時

### 《テーマ》

シームレスな連携に向けた課題

- 講師：
- ・つくば双愛居宅介護支援事業所  
主任介護支援専門員 原科 貴志 氏
  - ・谷田部西地域包括支援センター  
主任介護支援専門員 平林 康行 氏
  - ・いちほら病院 連携調整室  
理学療法士 森田 英隆 氏

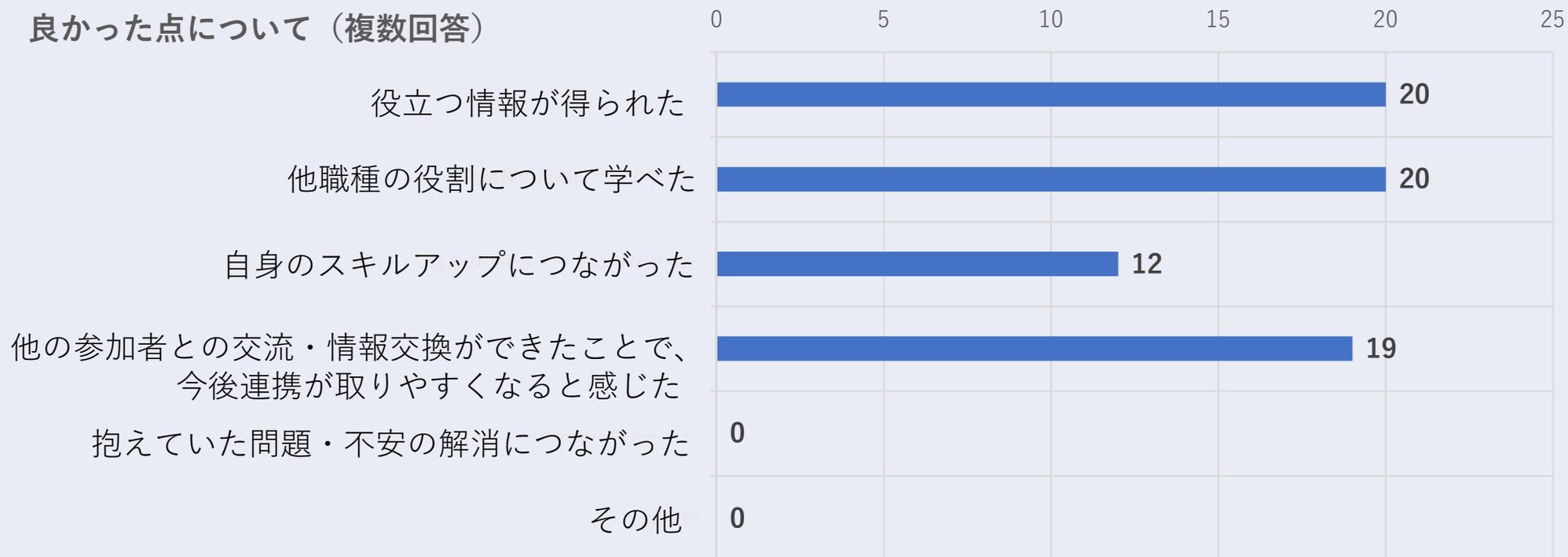
参加者：45名

（ケアマネジャー、訪問看護師、退院調整看護師、薬剤師、MSW、リハビリテーション専門員、地域包括支援センター）

## 《第1回多職種連携意見交換会 アンケート結果》

意見交換会について・・・とても満足：34% 満足：66%

### 良かった点について（複数回答）



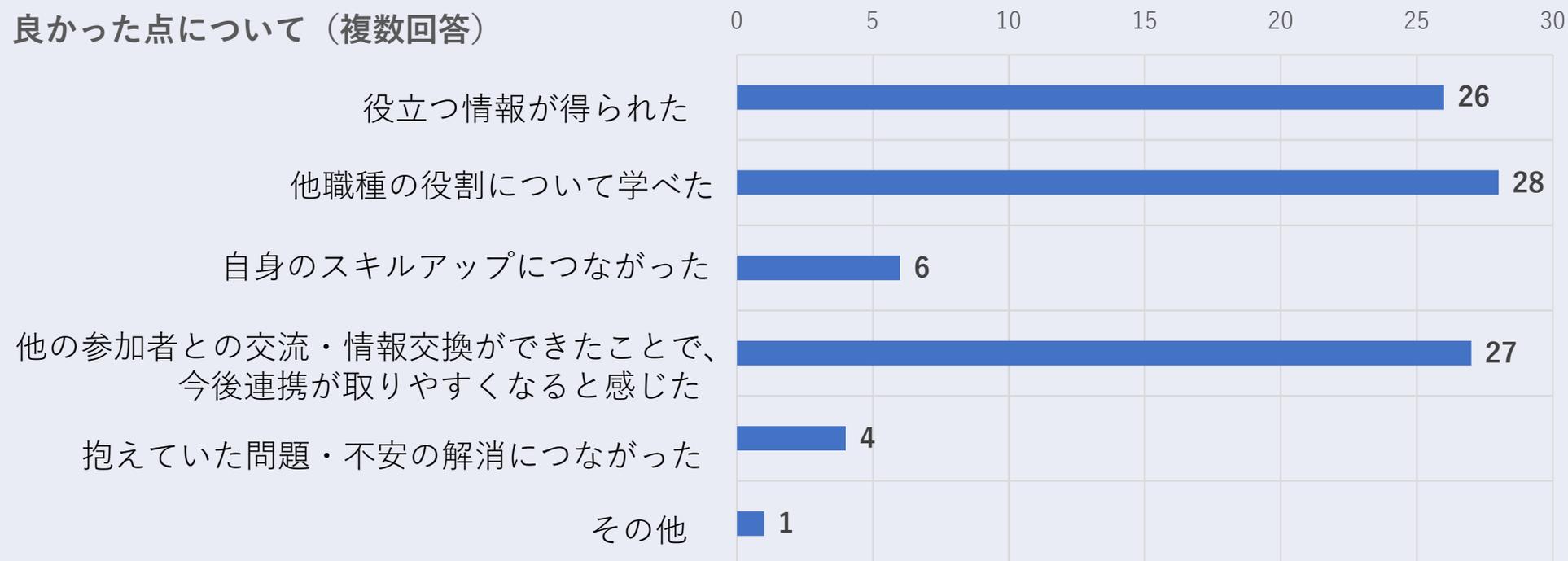
### 《意見交換会の意見・感想等》

- ・まったく異なる業種の方の貴重な意見を聞くことができた。
- ・他職種との交流が持て、意見や考え方を学ぶことが出来て大変良かった。
- ・ACPの考え方には在宅だけでなく、どの段階でも意識してかかわることが大切だと学ぶことができた。
- ・他職種に聞いてみたいことを聞く時間が欲しかった。

## 《第2回多職種連携意見交換会 アンケート結果》

意見交換会について・・・とても満足：51% 満足：49%

### 良かった点について（複数回答）



### 《意見交換会の意見・感想等》

- ・他の職種の立場や支援方法、関わりが知れて良かった。薬剤師の方との連携も増やすべきと思った。
- ・連携を取りたい、と考えているのは皆同じだという気づきがあった。今後は遠慮せず連携を取るように心がけていきたい。
- ・お互いを知る信頼関係があつての地域連携、互いの立場を理解して日々の業務に繋げていく機会になった。
- ・市内のいろいろな職種の方達ともっとグループワークで情報共有したい。

## 成果及び課題

- ・今年度は多職種間の関係構築、関係性を深めるため、意見交換をメインとした研修会を企画。研修のテーマを「シームレスな連携に向けた課題」とし、主に入退院支援、ACPに関連した研修会を実施できた。
- ・例年よりもグループワークの時間を多く設けたことで、他職種の役割について学べたという意見や、今後連携を取りやすくなると感じたという意見が多かった。
- ・開催時間が短いという意見があり、多職種が参加しやすい日程で、開催時間を2時間以上とする等の検討が必要。

## 次年度の方向性

- ・引き続き意見交換をメインとしつつ、在宅医療の4場面をベースとした研修会を企画する。
- ・平日夜間で開催していたところを、多職種がより参加しやすいよう、休日の日中帯に開催するなど、開催方法を検討していく。

## 4 情報集約・発信・共有検討部会 (情報部会)

### 部 会 内 容

#### 第1回部会

令和6年7月9日 (火)

協議内容

- ・ 市民への情報発信について  
(ハートページ)  
(在宅医療と介護のサービスマップ)  
(わたしの大切な情報カード)
- ・ 専門職間の情報共有について

#### 第2回部会

令和6年1月17日 (金)

協議内容

- ・ 在宅医療・介護関連冊子の活用状況調査結果について
- ・ わたしの大切な情報カードについて
- ・ 専門職間の情報共有について
- ・ 令和6年度の振り返り及び令和7年度の方方向性

# ICT連携ツール導入作業チーム員会議

## 会議内容

### 第1回会議

令和6年9月25日（水）

協議内容

- ・ ICT連携ツールのデモンストレーション（電子@連絡帳）
- ・ 今後のスケジュールについて

### 第2回会議

令和7年1月14日（火）

協議内容

- ・ ICT連携ツールのデモンストレーション（カナミック）
- ・ 令和6年度の振り返り及び令和7年度の方方向性

## 成果及び課題

- ・ 医療機関に対し、ハートページ、サービスマップの活用状況調査を実施し、活用状況や意見を確認することができた。
- ・ 令和8年度からの導入に向けて、ICT連携ツールを活用している近隣市へ視察を行い、実態を確認できた。
- ・ ICT連携ツール導入作業チームを編成しデモンストレーションを行うことができた。

## 次年度の方向性

- ・ 活用状況調査の結果を踏まえ、次年度の編集や配布数の見直しを行うとともに、より良い退院調整に活かしてもらうため、活用方法の周知を行う。
- ・ ICT連携ツールに関しては令和8年度からの導入に向け準備を進めていく。

# 5 在宅医療に必要な連携拠点検討部会

(連携拠点検討部会)

## 部 会 内 容

### 第1回部会

令和6年7月25日（木）

協議内容

- ・ 連携体制の課題について
- ・ 令和7年度実務部会・協議会委員の構成について

### 第2回部会

令和6年11月12日（火）

協議内容

- ・ 令和7年度実務部会・協議会委員の構成について
- ・ 令和6年度の振り返り及び令和7年度の方向性

## 成果及び課題

- ・ 令和7年度実務部会の構成について協議できた。

## 次年度の方向性

- ・ 連携拠点検討部会と評価部会を統合し、協議を継続していく。

**【在宅医療・介護連携推進事業の具体的な取り組み】**

- (ア)地域の医療・介護の資源の把握
- (イ)在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
- (ウ)切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築の推進
- (エ)医療・介護関係者の情報共有の支援
- (オ)在宅医療・介護連携に関する相談支援
- (カ)医療・介護関係者の研修
- (キ)地域住民への普及啓発

**【在宅医療・介護連携推進協議会委員】**

- ・つくば市医師会
- ・筑波大学(医学医療系)
- ・つくば市社会福祉協議会
- ・つくば市歯科医師会
- ・つくば薬剤師会
- ・つくばケアマネジャー連絡会
- ・つくば市地域密着型サービス事業所連絡会
- ・つくば市リハビリテーション専門職協議会
- ・茨城県訪問看護ステーション協議会
- ・茨城県ソーシャルワーカー協会
- ・退院調整看護師の会
- ・障がい関係の相談事業所
- ・つくば市消防本部
- ・茨城県つくば保健所

部会名称	主な内容
1 評価検討部会 (イ)(ウ)	(1)ありたい姿の評価指標の進捗管理、課題抽出 (2)ありたい姿の実現に向け各部会へ課題等を発信 等
2 市民向け普及啓発部会 (ア)(キ)	(1)市民向け啓発講座の企画・実施 (在宅医療、在宅介護、ACP 等) (2)地域の社会資源の把握、情報発信 (ハートページ、在宅医療と介護のサービスマップ、 わたしの生き方ノート、わたしの大切な情報カード)
3 専門職向け意見交換・研修部会 (オ)(カ)	(1)在宅医療の4つの場面に関する研修・意見交換会の企画、 実施及び評価 (日常の療養支援/入退院支援/急変時の対応/看取り)
4 情報部会 (ア)(エ)	(1)ICT 連携ツール導入に向けた体制整備 (2)専門職向けの地域の社会資源の把握、情報整理 (高齢者の地域包括ケアのためのミニ知識)